

第22回「市民の声」アンケート

集 計 結 果

(平成28年度)

桐生市 総合政策部 情報政策課

目 次

第22回「市民の声」アンケート集計結果	1
第22回「市民の声」アンケート集計表	
●基本調査項目	2
●市内の移動について	23
●広報きりゅうについて	26
●市議会だよりについて	27
●防災について	29
●墓地について	33
●自治会・町会について	36
●地球温暖化・省エネルギーについて	40
●市内の空き家・空き地の活用について	43
●水道事業について	47
第22回「市民の声」アンケート自由意見集約結果	51

第22回「市民の声」アンケート集計結果

1. 調査目的

市民参加による市政を進めるなかで、市政全般について市民の意識、意見などの傾向を調査し、今後の市政運営の参考資料とするもの。

2. 調査項目

質問数は全体で47問。毎回同じ質問を行い、回答の推移をみている基本調査項目8問と、公共交通や防災など、事業課から調査項目として要望のあった9分野39問で構成されている。また、提言、意見などを記入していただく自由意見記入欄を設けた。

3. 調査設計

- | | |
|----------|---|
| (1) 調査区域 | 市内全域 |
| (2) 調査対象 | 20歳以上の市民 |
| (3) 対象者数 | 2,000人 |
| (4) 抽出方法 | 無作為抽出
※住民基本台帳からコンピューターによる抽出で、抽出数は地区や年齢層ごとの人口比とほぼ同一である。 |
| (5) 調査方法 | 調査用紙を対象者にメール便で送付し、郵送により回収 |
| (6) 調査期間 | 平成28年7月15日～31日 |

4. 回収結果

- | | | |
|-----------------|--------|-----------|
| (1) 発送調査対象数 | 2,000人 | (A) |
| (2) 回収調査対象数 | 1,067人 | (B) |
| (3) 回収率 | 53.4% | (B/A×100) |
| (4) 自由意見記入欄記載者数 | 372人 | (694件) |

5. 資料

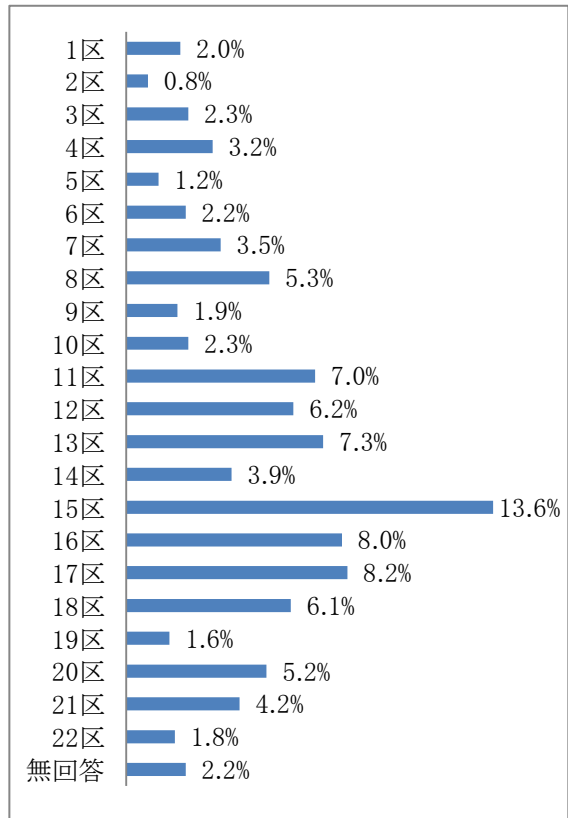
- (1) 第22回「市民の声」アンケート集計表
- (2) 第22回「市民の声」アンケート自由意見集約結果
※表やグラフの作成にあたり、パーセントの算出については、小数点以下第2位を四捨五入するなどの調整を行っている。

第22回「市民の声」アンケート集計表

基本調査項目

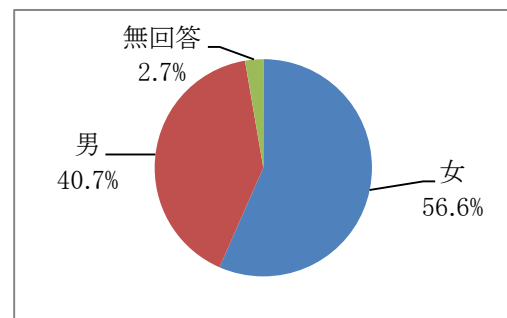
問1 あなたのお住まいの地区に○をつけてください。

	回答数	構成比
1区	21	2.0%
2区	9	0.8%
3区	25	2.3%
4区	34	3.2%
5区	13	1.2%
6区	23	2.2%
7区	37	3.5%
8区	57	5.3%
9区	20	1.9%
10区	25	2.3%
11区	75	7.0%
12区	66	6.2%
13区	78	7.3%
14区	42	3.9%
15区	146	13.6%
16区	85	8.0%
17区	87	8.2%
18区	65	6.1%
19区	17	1.6%
20区	55	5.2%
21区	45	4.2%
22区	19	1.8%
無回答	23	2.2%
計	1,067	100.0%



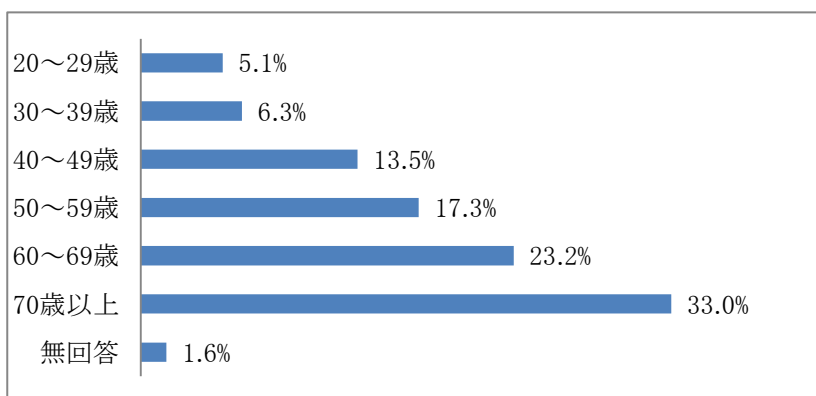
問2 あなたの性別はどちらですか。

	回答数	構成比
女	604	56.6%
男	434	40.7%
無回答	29	2.7%
計	1,067	100.0%



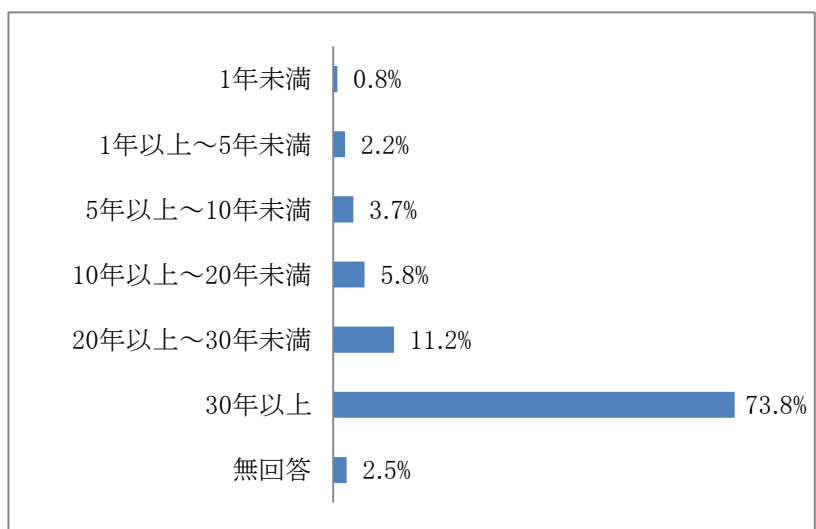
問3 あなたの年齢はおいくつですか。

	回答数	構成比
20～29歳	54	5.1%
30～39歳	67	6.3%
40～49歳	144	13.5%
50～59歳	185	17.3%
60～69歳	248	23.2%
70歳以上	352	33.0%
無回答	17	1.6%
計	1,067	100.0%



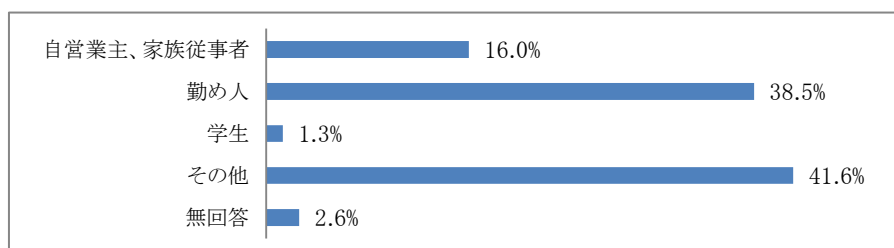
問4 あなたは桐生市に住んでどのくらいになりますか。

	回答数	構成比
1年未満	9	0.8%
1年以上～5年未満	24	2.2%
5年以上～10年未満	39	3.7%
10年以上～20年未満	62	5.8%
20年以上～30年未満	119	11.2%
30年以上	787	73.8%
無回答	27	2.5%
計	1,067	100.0%



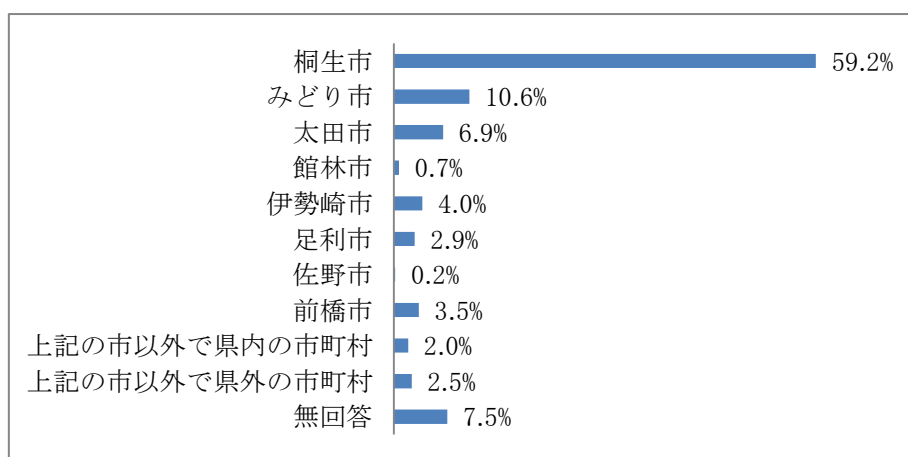
問5 あなたの職業に○をつけてください。兼業の方は、本業と思われるほうに○をつけてください。

	回答数	構成比
自営業主、家族従事者（農・林・漁業、会社・工場・商店などの経営、自由業）	171	16.0%
勤め人（会社・工場・商店・官公庁などに勤務、パート・アルバイト含む）	411	38.5%
学生	14	1.3%
その他（家事専業、無職、その他）	444	41.6%
無回答	27	2.6%
計	1,067	100.0%



問6 職業をお持ちの方や学生の方にお聞きします。あなたの勤務先（事業所・工場・商店などの所在地）や通学先はどちらですか。

	回答数	構成比
桐生市	353	59.2%
みどり市	63	10.6%
太田市	41	6.9%
館林市	4	0.7%
伊勢崎市	24	4.0%
足利市	17	2.9%
佐野市	1	0.2%
前橋市	21	3.5%
上記の市以外で県内の市町村	12	2.0%
上記の市以外で県外の市町村	15	2.5%
無回答	45	7.5%
計	596	100.0%



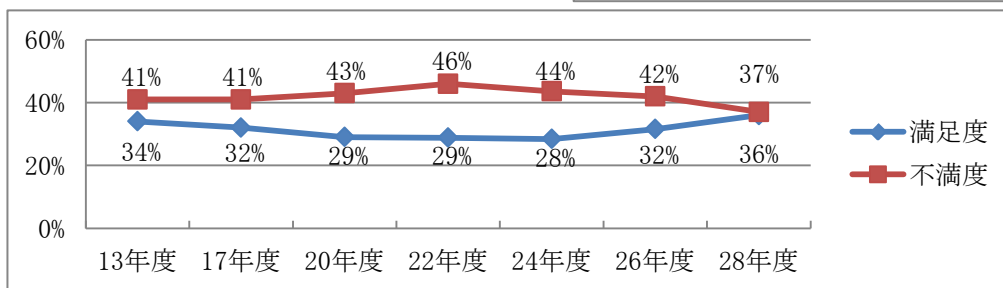
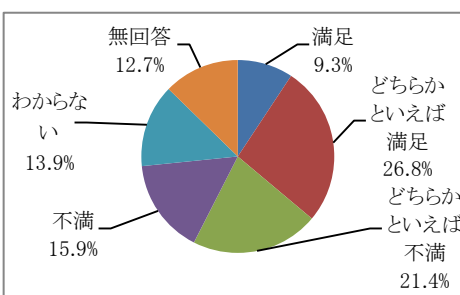
問7 毎日の暮らしの満足度

桐生市のことについてお聞きします。あなたは桐生市に住んでいて、毎日の暮らしをどのように感じていますか。

1. 働く場として

「不満」(15.9%)と「どちらかといえば不満」(21.4%)の合計が37.3%
 「満足」(9.3%)と「どちらかといえば満足」(26.8%)の合計が36.1%で
 「不満」「どちらかといえば不満」が上回っているものの、前回調査結果と比
 べ31.6%だった満足度が、36.1%と4.5ポイント増加している。このことから、
 職場環境や雇用条件などの改善が進んでいると推測される。また、不満度が
 42.0%から4.7ポイント減少していることから政府の経済政策により、景気回復
 の動きとともに、雇用情勢などの改善や、市内企業の努力が推測される。市と
 してもさらなる企業の発展に努めるとともに、企業誘致などを含めた一層の雇
 用拡大に引き続き積極的に取り組む必要がある。

	回答数	構成比
満足	99	9.3%
どちらかといえば満足	286	26.8%
どちらかといえば不満	228	21.4%
不満	170	15.9%
わからない	148	13.9%
無回答	136	12.7%
計	1,067	100.0%

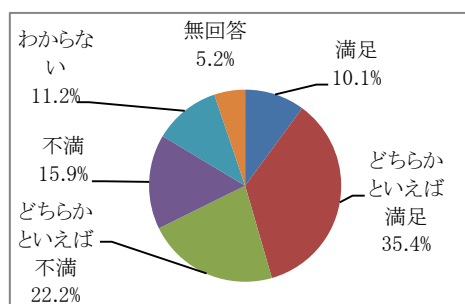


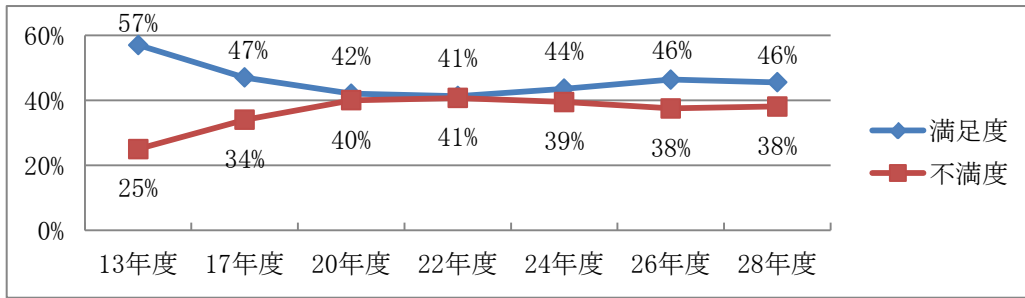
2. 老後の生活の場として

「満足」(10.1%)と「どちらかといえば満足」(35.4%)の合計が45.5%
 であるのに対し、「不満」(15.9%)と「どちらかといえば不満」(22.2%)
 の合計は38.1%となっている。

福祉サービスのニーズが多様化する中で、現在のサービスをより効率的に提
 供できるよう検討するとともに、安心して暮らし続けることができる福祉施策
 に取り組んでいく必要がある。

	回答数	構成比
満足	108	10.1%
どちらかといえば満足	377	35.4%
どちらかといえば不満	237	22.2%
不満	170	15.9%
わからない	120	11.2%
無回答	55	5.2%
計	1,067	100.0%

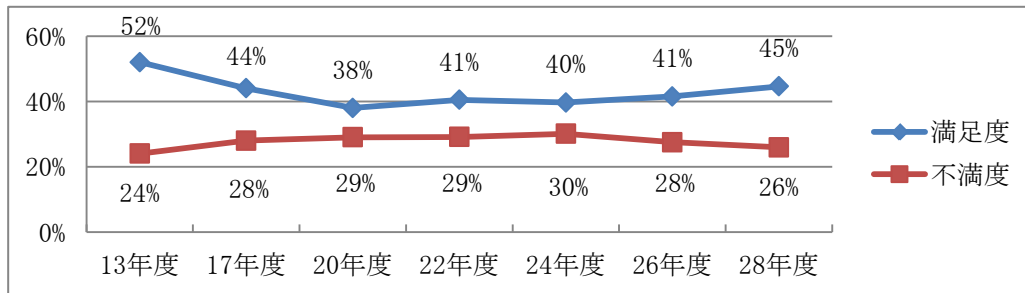
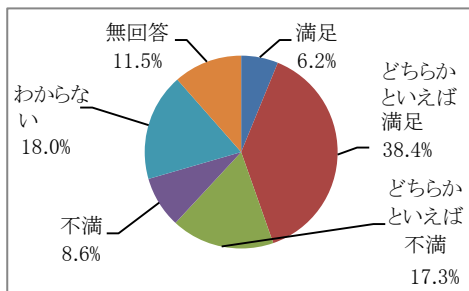




3. 子供の教育の場として

「満足」(6.2%)と「どちらかといえば満足」(38.4%)の合計が44.6%で、前回調査と比べ3.1ポイント増加している。一方、「不満」(8.6%)と「どちらかといえば不満」(17.3%)の合計は25.9%で、前回と比べ1.6ポイント減少しており、子供の教育の場としての評価はやや向上している。今後も子供にとって園・学校生活がより一層充実したものになるよう取り組んでいきたい。

	回答数	構成比
満足	66	6.2%
どちらかといえば満足	410	38.4%
どちらかといえば不満	185	17.3%
不満	92	8.6%
わからない	192	18.0%
無回答	122	11.5%
計	1,067	100.0%

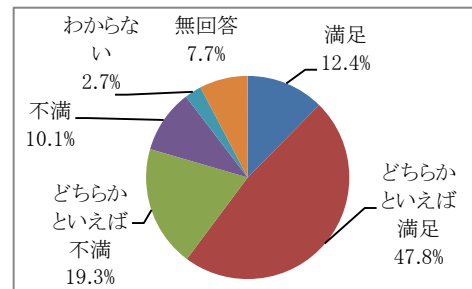


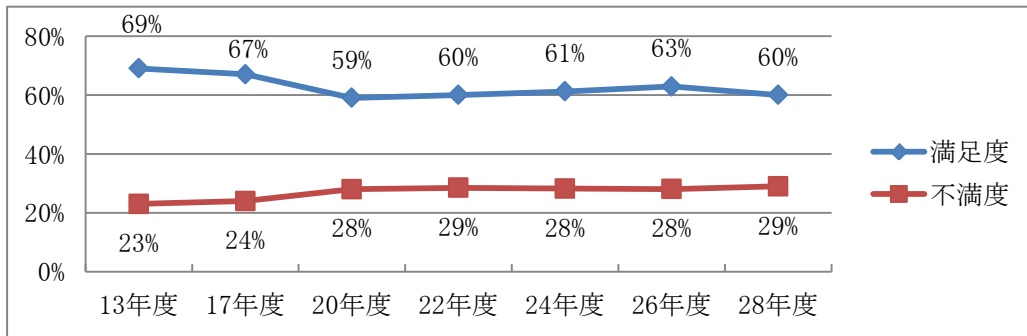
4. 住まいの環境や暮らしやすさ

「満足」(12.4%)と「どちらかといえば満足」(47.8%)の合計が60.2%となっており過半数を超え市民がおおむね満足しているものの、前回調査と比べ2.7ポイント減少した。

一方、「不満」(10.1%)と「どちらかといえば不満」(19.3%)の合計が29.4%と前回調査と比べ1.3ポイント増加している。今後も引き続き、住環境の改善や、誰もが快適な生活を営み住み続けたいと思えるまちづくりを目指す取り組みを行っていく必要がある。

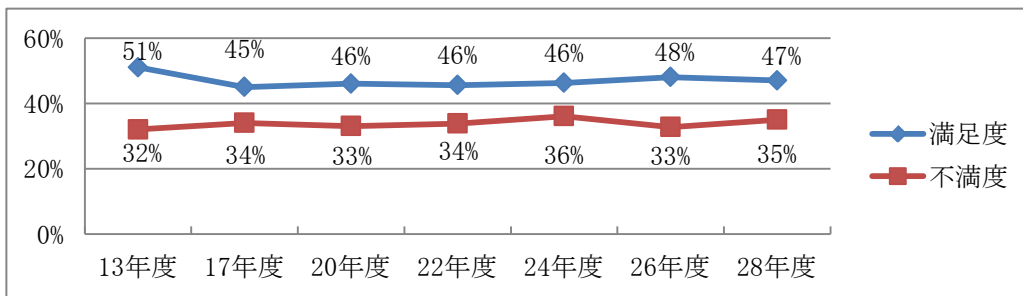
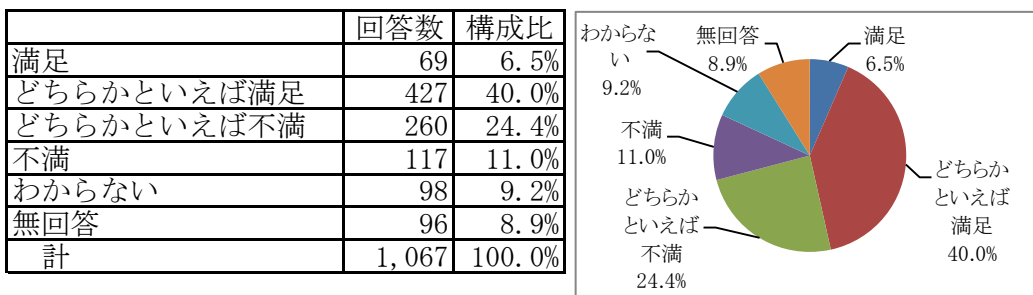
	回答数	構成比
満足	132	12.4%
どちらかといえば満足	510	47.8%
どちらかといえば不満	206	19.3%
不満	108	10.1%
わからない	29	2.7%
無回答	82	7.7%
計	1,067	100.0%





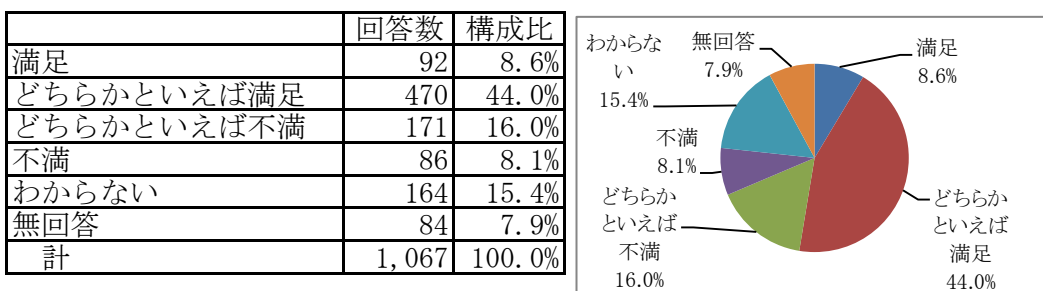
5. 生きがいや暮らしの充実感

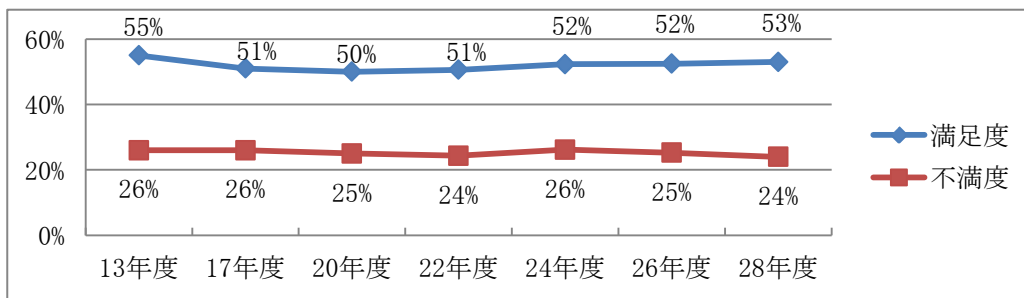
「満足」(6.5%)と「どちらかといえば満足」(40.0%)の合計が46.5%となっている。今後も人や地域とのかかわりを広げながら、生きがいを感じられるような社会参加の場を提供するなど、生きがい対策に取り組んでいく必要がある。



6. 住民同士の協力体制

「満足」(8.6%)と「どちらかといえば満足」(44.0%)の合計が52.6%となる一方、「不満」(8.1%)と「どちらかといえば不満」(16.0%)の合計が24.1%となった。前回の調査との比較では満足度が0.1ポイント上昇し、不満度は1.2ポイント下降した。近年の自然災害に対し、自治組織や地域住民のつながりの大切さを再認識する機会が増加する傾向にあり、今後も引き続き協力体制を強化していきけるよう支援する必要がある。





問8 地区の生活環境の満足度

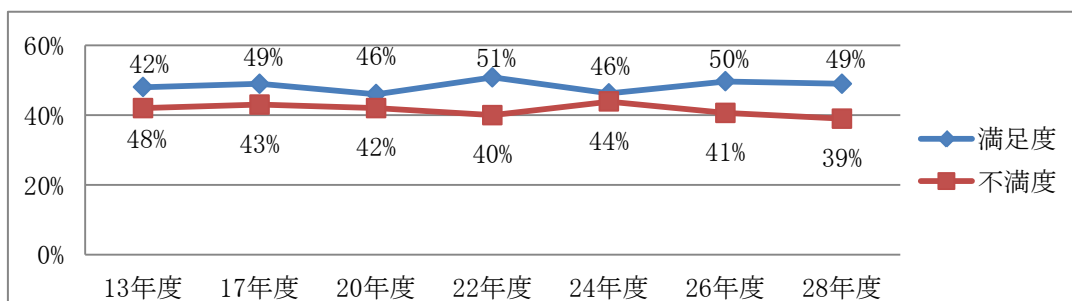
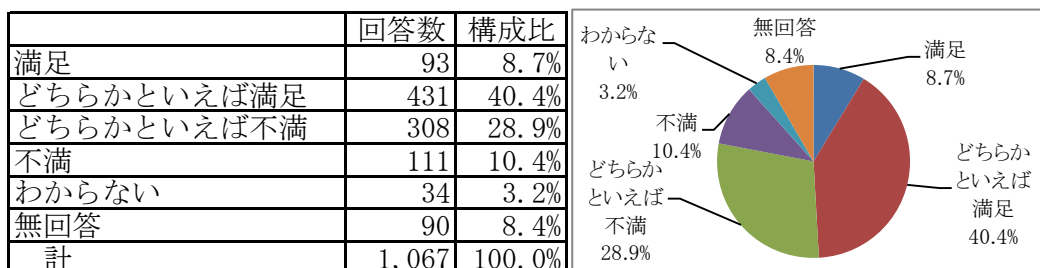
あなたの住んでいる地区についてお聞きします。あなたは、住んでいる地区の生活環境についてどのように感じていますか。次の1～19の項目について該当する欄に○をつけてください。

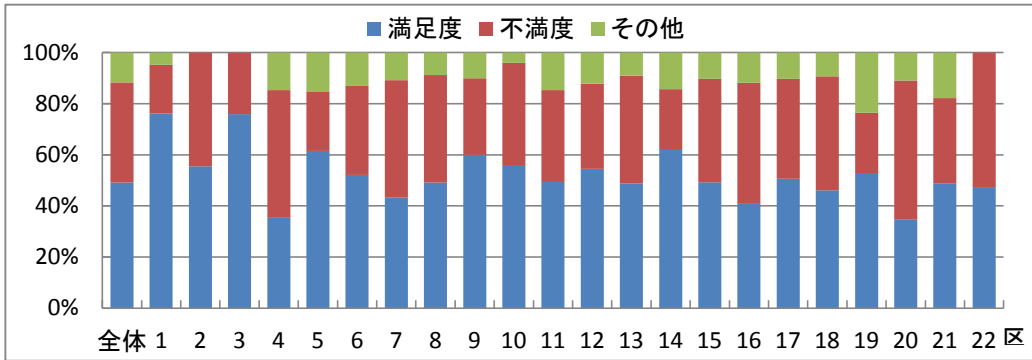
※地区別のグラフは標本数が少ないため参考としてください。

1. 道路交通の安全さ

「満足」(8.7%)と「どちらかといえば満足」(40.4%)の合計が49.1%で、前回調査と比較すると満足度が0.5ポイント減少している。「不満」(10.4%)と「どちらかといえば不満」(28.9%)の合計は39.3%で、前回調査と比較して不満度も1.4ポイント減少している。

今後さらに、交通危険箇所の把握に努め、主要幹線道路以外の生活道路の路面表示等の注意喚起や歩道の改修などを進めることはもちろんのこと、引き続き、既設道路内の区画線等の改修により路肩部の拡幅や道路関係以外の要因として、信号機やカーブミラー等の設置など交通安全施設を整備し道路交通の安全性の向上に努めていく必要がある。

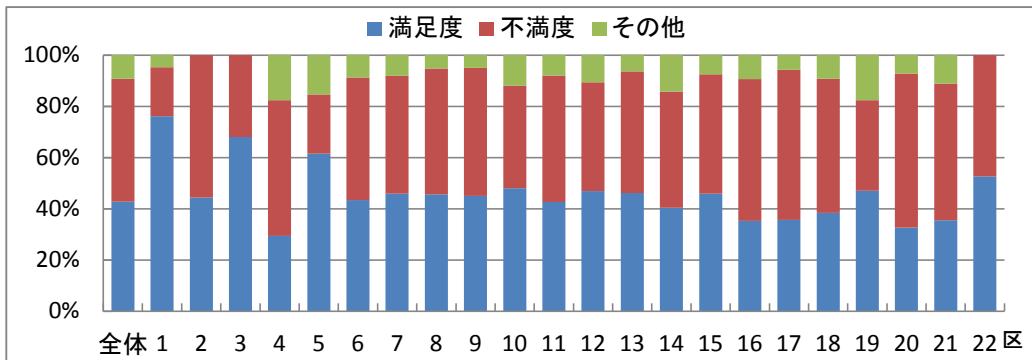
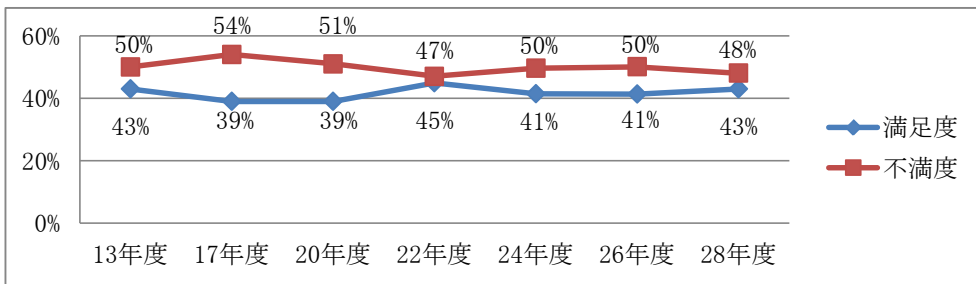
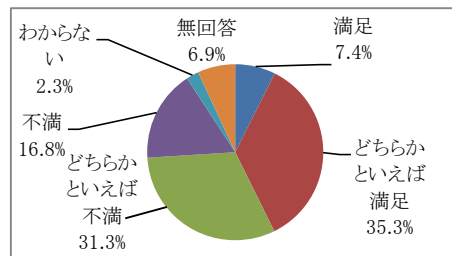




2. 道路の広さや舗装状況

「満足」(7.4%)「どちらかといえば満足」(35.3%)の合計が42.7%で「不満」(16.8%)「どちらかといえば不満」(31.3%)の合計が48.1%と前回の調査に比較すると満足度が1.4ポイント増加し、また不満度は2.0ポイント増加している状況であることから、前回の調査から若干改善されてきているものの、不満度が満足度を上回っている状況の背景として、市街地などの幅員狭小で見通しの悪い道路が多いこと、地下埋設物関連の工事によるもの、舗装の老朽化などが原因と考えられる。道路幅員の拡幅は物理的な問題もあり困難であるものの、舗装の老朽化の対応及び地下埋設物占有業者との引き続きの連携を図りながら整備を進めていく必要がある。

	回答数	構成比
満足	79	7.4%
どちらかといえば満足	377	35.3%
どちらかといえば不満	334	31.3%
不満	179	16.8%
わからない	25	2.3%
無回答	73	6.9%
計	1,067	100.0%



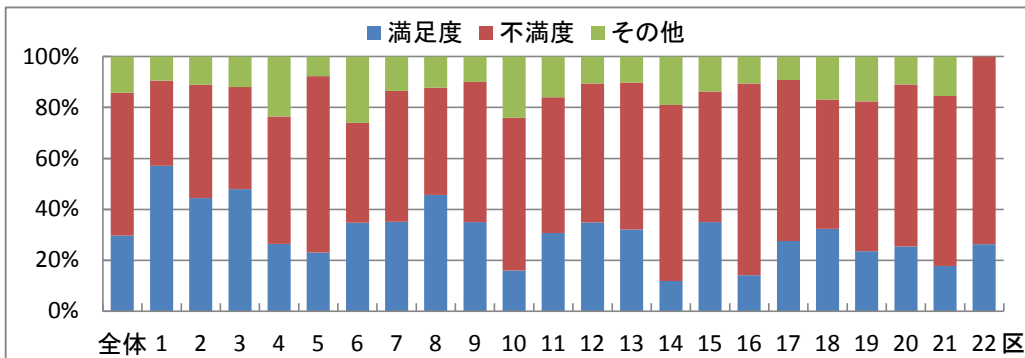
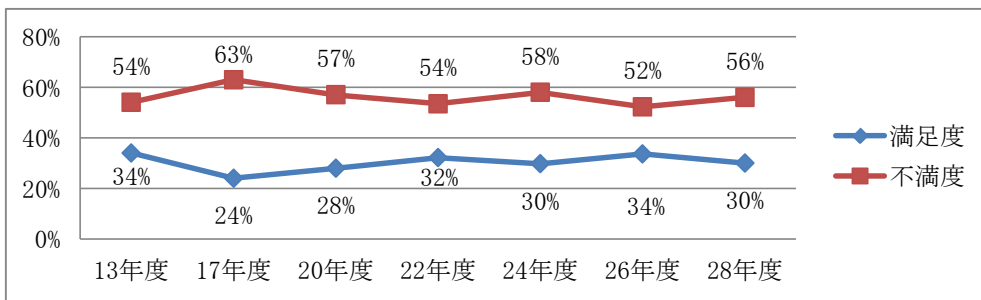
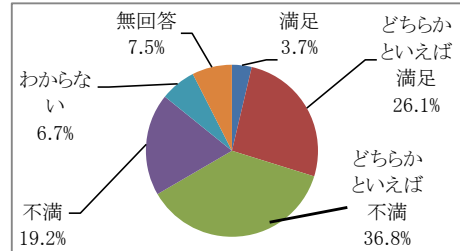
3. 夜道の安全さなど防犯

「不満」(19.2%)と「どちらかといえば不満」(36.8%)の合計が56.0%で、前回調査と比較すると不満度が3.7ポイント増加し、「満足」(3.7%)と「どちらかといえば満足」(26.1%)の合計が29.8%で、前回調査より満足度が3.9ポイント減少した。

不満度が増加し、満足度が減少して、不満度が満足度を大きく上回っている状況である。

市では平成25年度に市内の防犯灯をLED防犯灯に交換しているが、今後も引き続き、市民、警察、防犯協会などと連携し、防犯灯の設置奨励費の拡充などにより、安全なまちづくりを推進する必要がある。

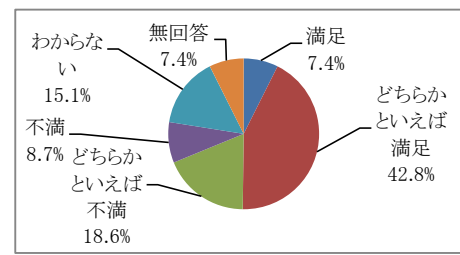
	回答数	構成比
満足	39	3.7%
どちらかといえば満足	278	26.1%
どちらかといえば不満	393	36.8%
不満	205	19.2%
わからない	71	6.7%
無回答	81	7.5%
計	1,067	100.0%

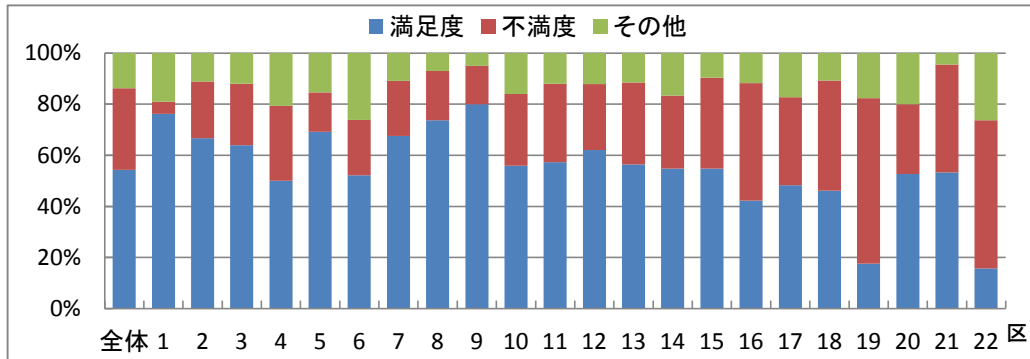
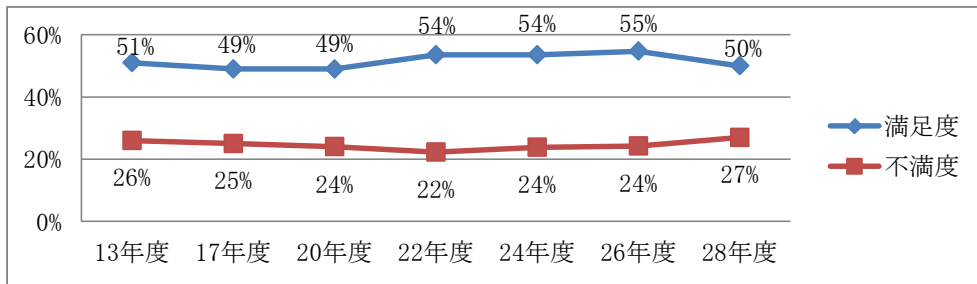


4. 火災、水害などの防災

「満足」(7.4%)と「どちらかといえば満足」(42.8%)の合計が50.2%で過半数を超えているが、前回調査より4.5ポイント減少している。また、「不満」(8.7%)と「どちらかといえば不満」(18.6%)の合計が27.3%で、前回調査より3.1ポイント増加している。近年、地震や大雨による災害が全国各地で発生しており、市民の防災に対する関心と災害に対する不安の高まりが要因と考えられる。このことから、防災体制の充実とともに市民への防災意識の高揚と防災知識の普及を引き続き図っていく必要がある。

	回答数	構成比
満足	79	7.4%
どちらかといえば満足	457	42.8%
どちらかといえば不満	198	18.6%
不満	93	8.7%
わからない	161	15.1%
無回答	79	7.4%
計	1,067	100.0%

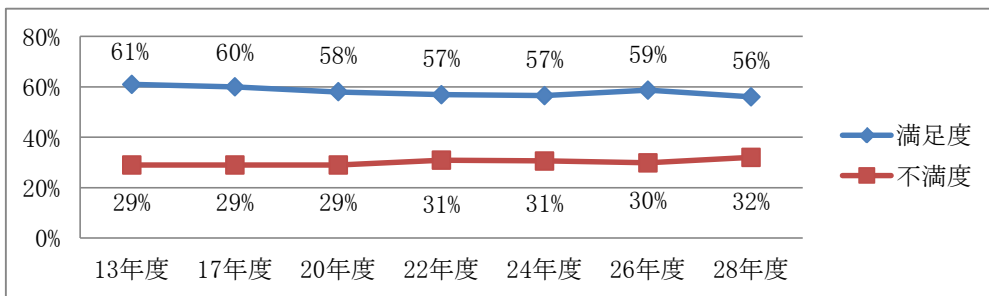
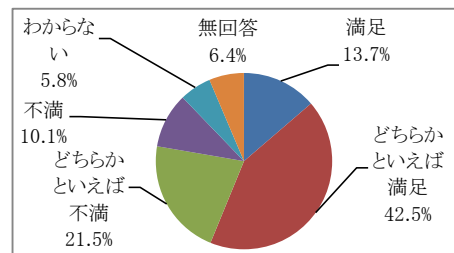


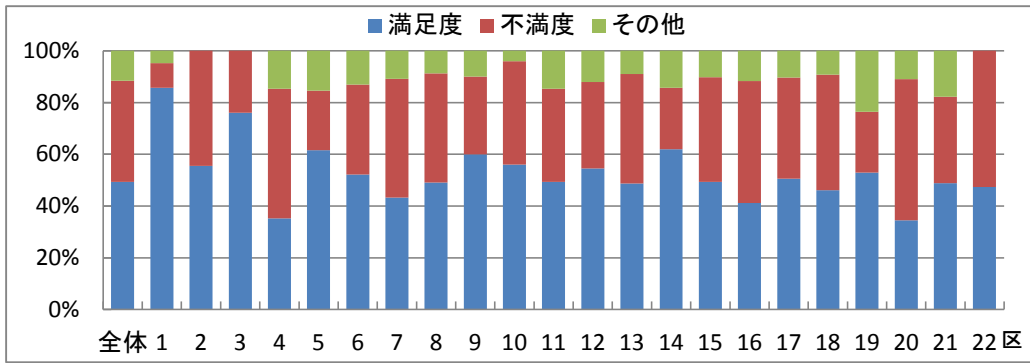


5. 下水や雨水のはけぐあい

「満足」と「どちらかといえば満足」の合計が前回より2.5ポイント減少して56.2%となり、「どちらかといえば不満」と「不満」の合計が前回より1.8ポイント増加し31.6%となった。污水管の整備に関しては現在、川内・新里地区を中心に順次進捗しているが、雨水幹線に関しては相生・広沢地区を中心に整備が進んでいるものの、今だ未整備箇所もあるため、近年多発する集中豪雨等の自然災害に起因する排水状況の結果であると考察される。したがって、今後も計画的に雨水幹線の整備を進める必要があると考える。

	回答数	構成比
満足	146	13.7%
どちらかといえば満足	453	42.5%
どちらかといえば不満	229	21.5%
不満	108	10.1%
わからない	62	5.8%
無回答	69	6.4%
計	1,067	100.0%

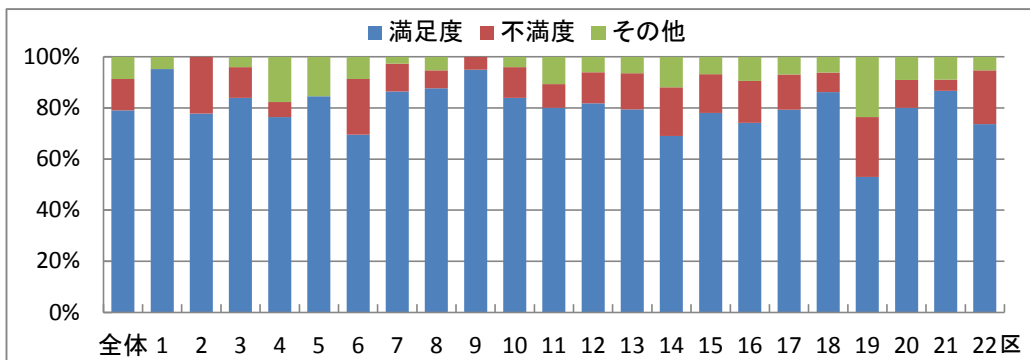
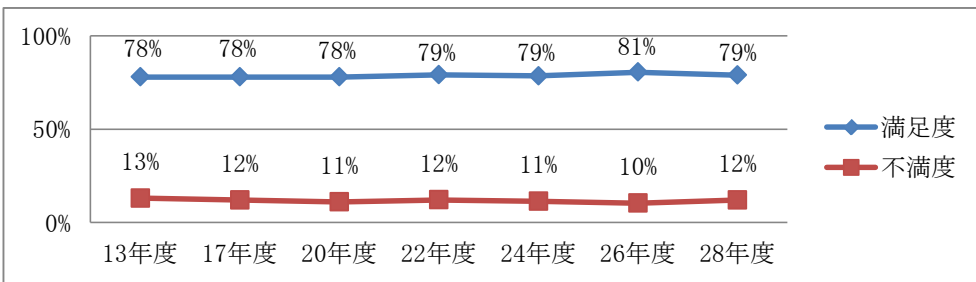
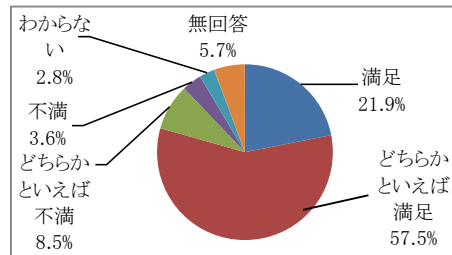




6. ごみの処理状況

「満足」(21.9%)と「どちらかといえば満足」(57.5%)の合計が79.4%で若干ではあるが、前回調査から1.2ポイント減り、「不満」(3.6%)、「どちらからといえば不満」(8.5%)、の合計は前回調査から1.7ポイント増えて12.1%となった。このため、今後ともごみの減量や、分別、リサイクルの推進について、更なる啓発を図っていく必要がある。

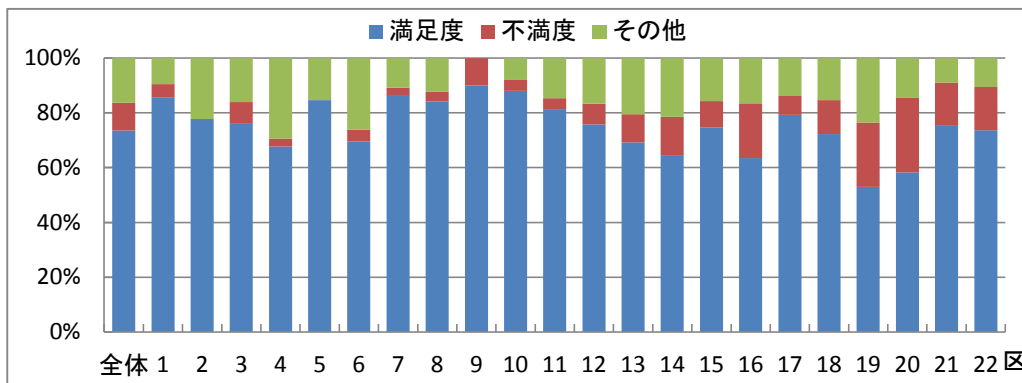
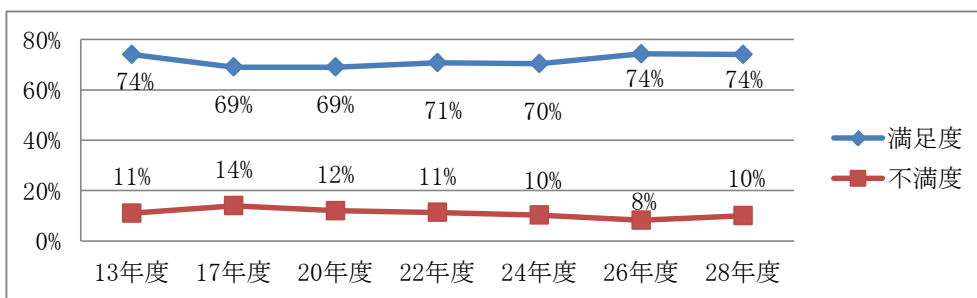
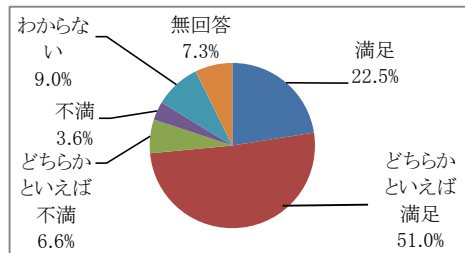
	回答数	構成比
満足	234	21.9%
どちらかといえば満足	613	57.5%
どちらかといえば不満	91	8.5%
不満	38	3.6%
わからない	30	2.8%
無回答	61	5.7%
計	1,067	100.0%



7. し尿の処理状況

「満足」(22.5%)と「どちらかといえば満足」(51.0%)との合計が前回より0.7ポイント減少して73.5%となり、逆に「どちらかといえば不満」(6.6%)と「不満」(3.6%)との合計が前回より1.9ポイント増加して10.2%となった。これは、下水道未整備地区での公共下水道や合併浄化槽の早期の普及促進を望む市民の声が多い結果であると考察される。したがって、同地区でのし尿処理施設の早期の普及を図るべく、公共下水道と合併浄化槽の住み分けも視野に入れた桐生市全体の計画を検討する必要があると考える。

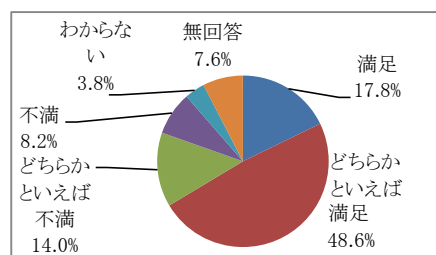
	回答数	構成比
満足	240	22.5%
どちらかといえば満足	545	51.0%
どちらかといえば不満	70	6.6%
不満	38	3.6%
わからない	96	9.0%
無回答	78	7.3%
計	1,067	100.0%

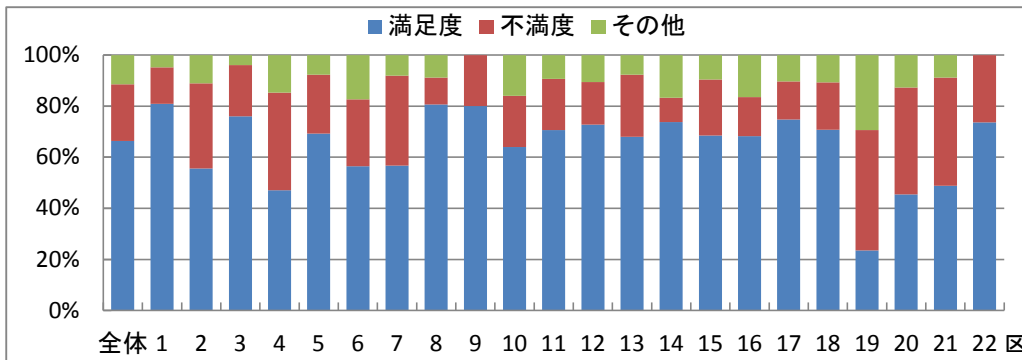
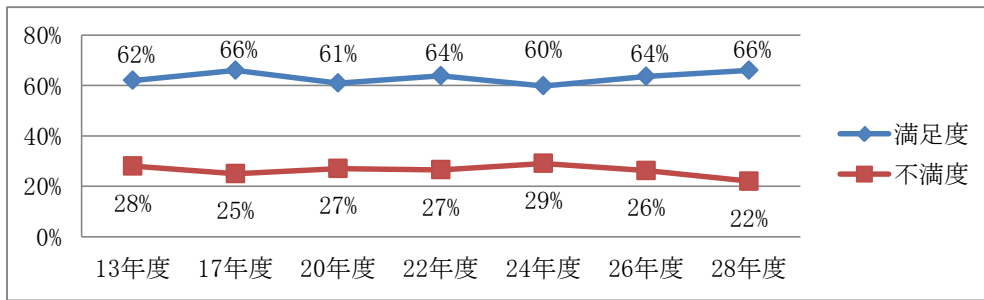


8. 騒音悪臭などの生活環境

「満足」(17.8%)と「どちらかといえば満足」(48.6%)の合計が66.4%で、前回調査より2.8ポイント増加し、市民がおおむね満足しているものの、「不満」(8.2%)と「どちらかといえば不満」(14.0%)の合計が22.2%あり、一定数の不満が顕在している。今後も継続して、生活環境の向上に努めていく必要がある。

	回答数	構成比
満足	190	17.8%
どちらかといえば満足	518	48.6%
どちらかといえば不満	149	14.0%
不満	88	8.2%
わからない	41	3.8%
無回答	81	7.6%
計	1,067	100.0%

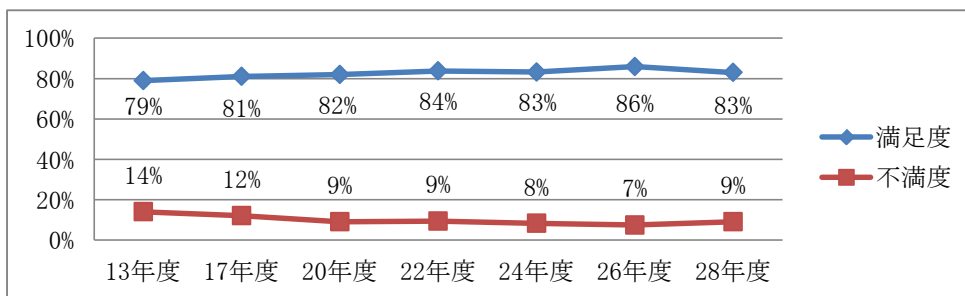
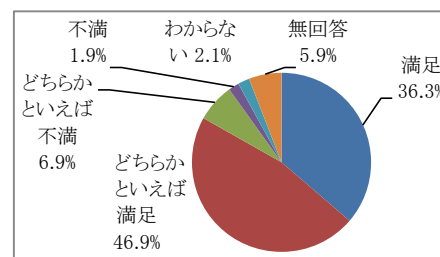


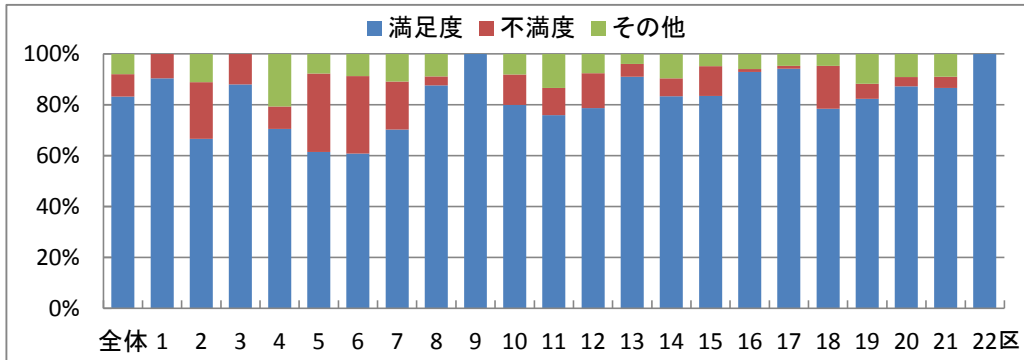


9. 緑の豊かさ

「満足」(36.3%)と「どちらかといえば満足」(46.9%)の合計が83.2%であり、年度別でも満足度が80%前後の高い水準で推移していることや、不満足度が10%未満であることから、山林に囲まれ清流のある自然に恵まれた環境や市街地の街路樹やグリーンベルトなど、桐生市の緑の豊かさに、市民が満足していることがうかがえる。

	回答数	構成比
満足	387	36.3%
どちらかといえば満足	501	46.9%
どちらかといえば不満	74	6.9%
不満	20	1.9%
わからない	22	2.1%
無回答	63	5.9%
計	1,067	100.0%

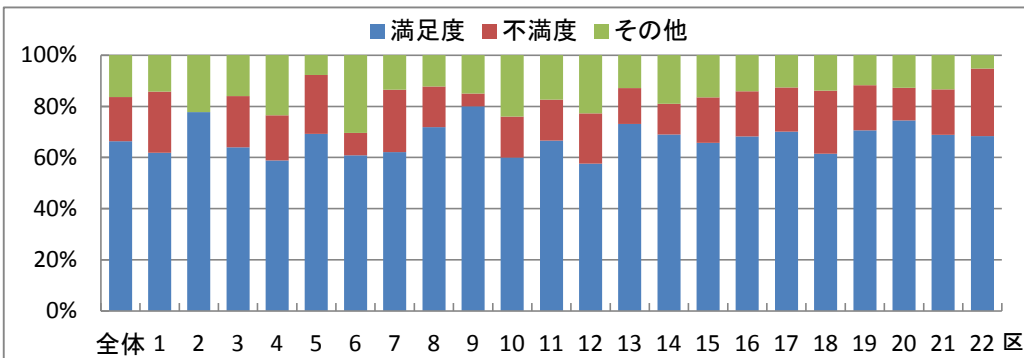
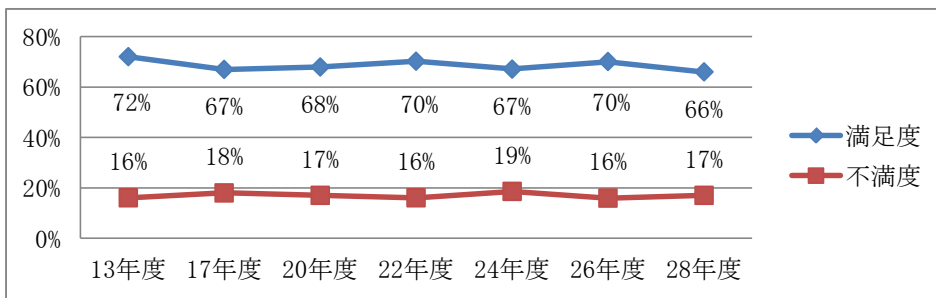
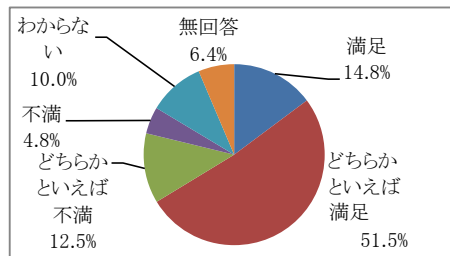




10. 近所づきあい

「満足」(14.8%)と「どちらかといえば満足」(51.5%)の合計が66.3%と前回調査より3.8ポイント下降し、また「不満」(4.8%)と「どちらかといえば不満」(12.5%)の合計が17.3%と前回調査より1.3ポイント上昇した。一人暮らし高齢者数の増加など孤立化の傾向が懸念されるが、近所づきあいは将来に持続可能な地域コミュニティを形成するうえで極めて重要な要素である。隣組も含めた自治組織の機能強化に向けた側面的支援とともに、住民の誰もが安心して安全に暮らしていけるよう、地域の実情に合わせた施策の充実や拠点整備に努める必要がある。

	回答数	構成比
満足	158	14.8%
どちらかといえば満足	550	51.5%
どちらかといえば不満	133	12.5%
不満	51	4.8%
わからない	107	10.0%
無回答	68	6.4%
計	1,067	100.0%

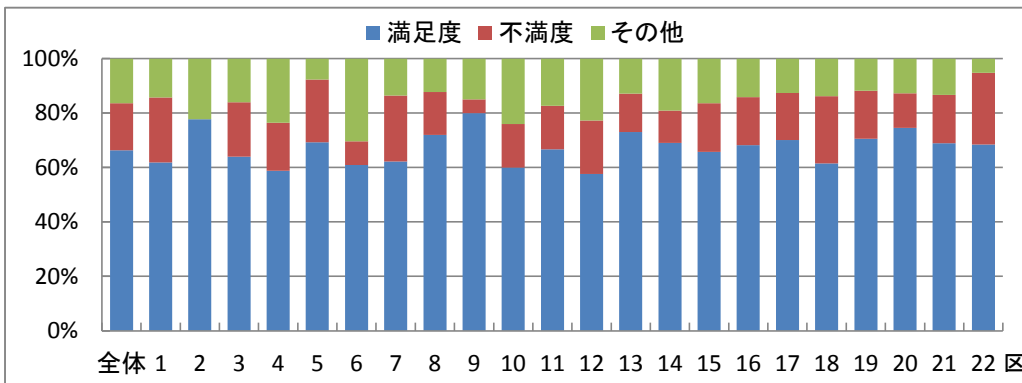
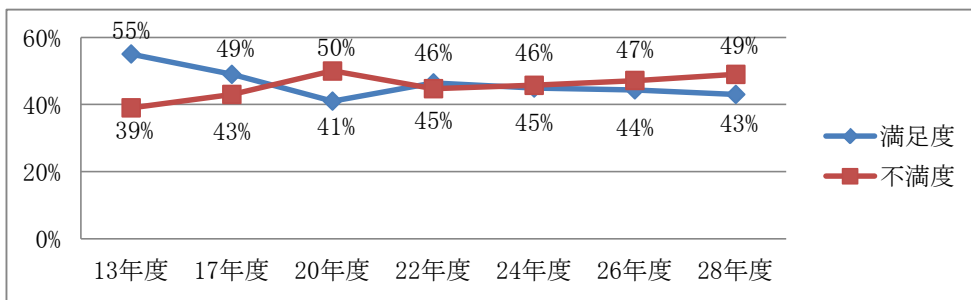
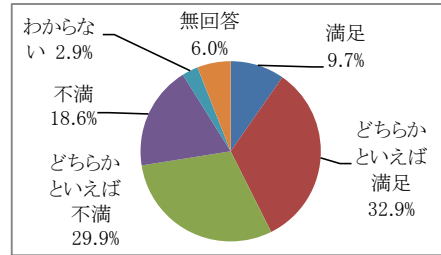


11. 日常の交通の便利さ

「満足」(9.7%)「どちらかといえば満足」(32.9%)の合計が42.6%で前回調査と比較すると1.7ポイント減少しており、「不満」(18.6%)「どちらかといえば不満」(29.9%)の合計が48.5%で前回調査と比較すると1.3ポイント上昇し、前回調査と比較すると若干不満度が上昇している。

今後とも関係機関と連携しながら、問題点の検討を行い、必要な道路交通網の整備など更なる利便性の向上につながる取り組みを行なう必要がある。

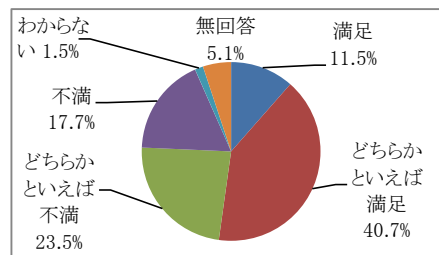
	回答数	構成比
満足	104	9.7%
どちらかといえば満足	351	32.9%
どちらかといえば不満	319	29.9%
不満	198	18.6%
わからない	31	2.9%
無回答	64	6.0%
計	1,067	100.0%

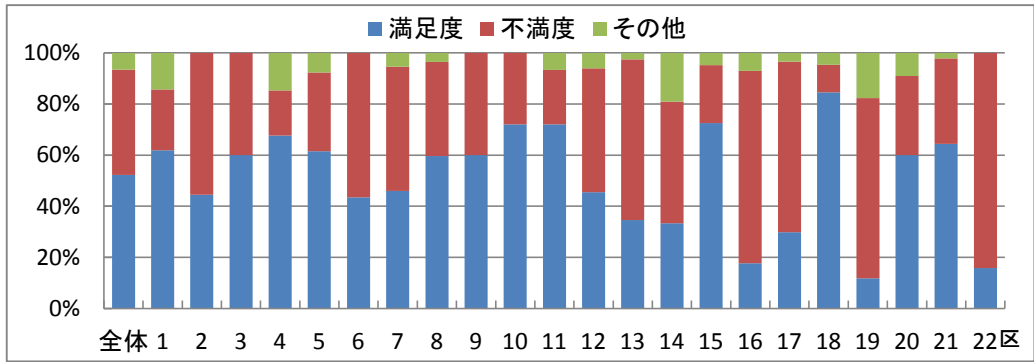
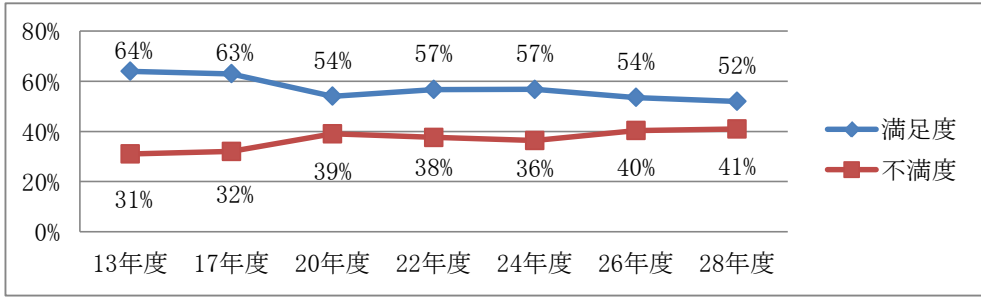


12. 日常の買い物の便利さ

「満足」(11.5%)と「どちらかといえば満足」(40.7%)を合計すると52.2%となり、「不満」(17.7%)と「どちらかといえば不満」(23.5%)の合計41.2%とを比較すると、満足度が11.0ポイント上回っている。しかしながら、前回の調査結果に比べ満足度は1.4ポイント減少し、不満度は0.9ポイント増加。その差も縮小傾向にある。商圈人口の減少や消費の冷え込みなどにより、市内の商店数は減少傾向にあり、今後も買い物の利便性向上に向けた取り組みが必要である。

	回答数	構成比
満足	123	11.5%
どちらかといえば満足	434	40.7%
どちらかといえば不満	251	23.5%
不満	189	17.7%
わからない	16	1.5%
無回答	54	5.1%
計	1,067	100.0%



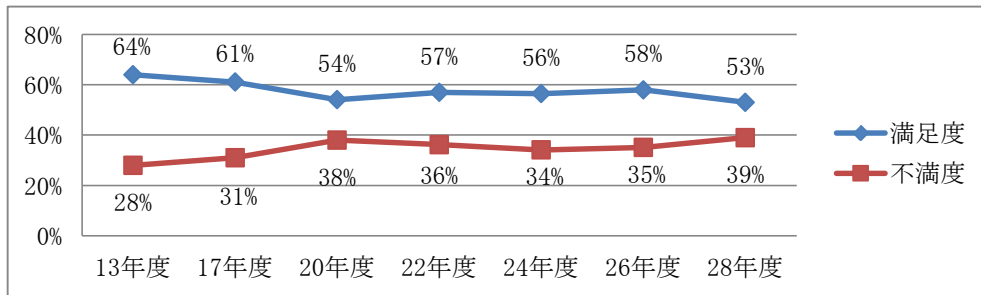
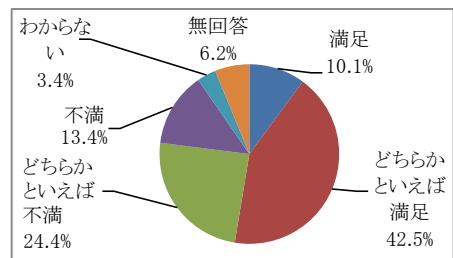


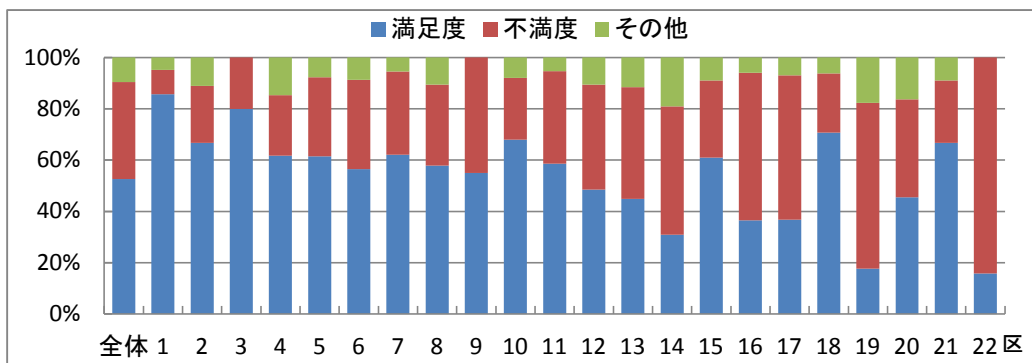
13. 病院や診療所の便利さ

「満足」（10.1%）と「どちらかといえば満足」（42.5%）を合わせると52.6%となり、前回に比べ5.3ポイント減少している。近年相次いでいる開業医など身近な保険医療機関の休業・閉院の状況が反映されていると考えられる。

今後においては、病院や診療所と地域の拠点病院である桐生厚生総合病院との適切な役割分担と連携を促進し、地域医療全体のレベルアップを進めていく必要がある。

	回答数	構成比
満足	108	10.1%
どちらかといえば満足	454	42.5%
どちらかといえば不満	260	24.4%
不満	143	13.4%
わからない	36	3.4%
無回答	66	6.2%
計	1,067	100.0%

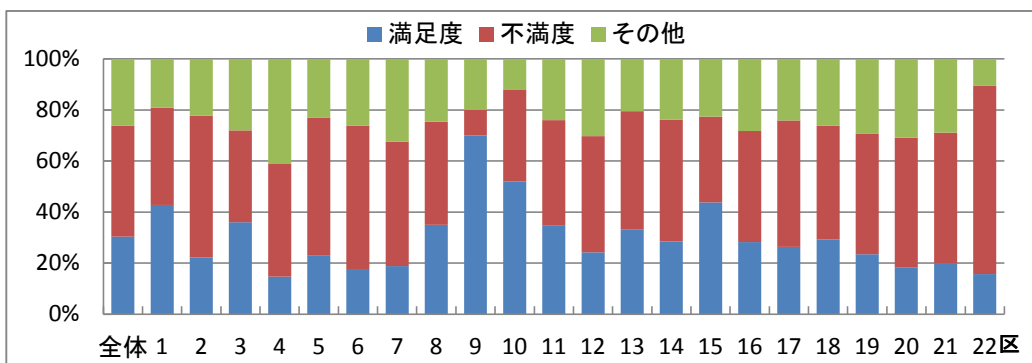
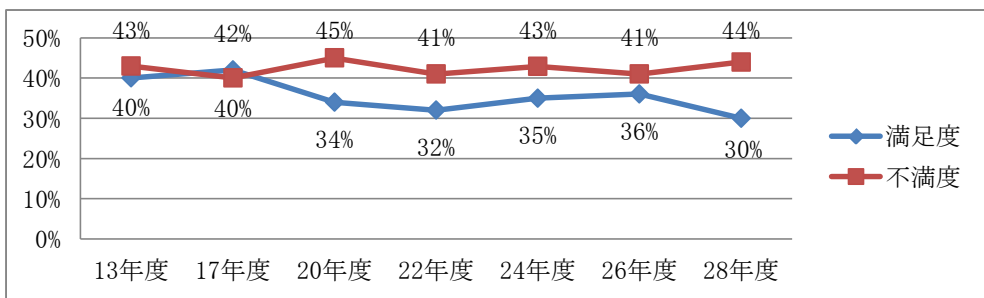
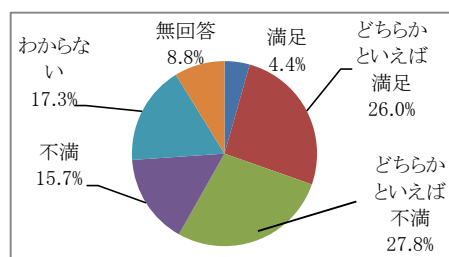




14. 公園や子供の遊び場

「不満」(15.7%)と「どちらかといえば不満」(27.8%)の合計が43.5%で、「満足」(4.4%)と「どちらかといえば満足」(26.0%)の合計が30.4%と、前回より満足度が下り不満と感じる人の割合が増加している。これは、老朽化した公園内遊具について改修工事などを逐次行っているものの、新たな遊具の設置が無かったことが要因の一つではないかと考えられる。遊具については子供の発達に即し、思いに応えるよう、日々工夫を検討していきたい。また今後も日常的に利用できる安全な遊び場の整備を行う必要がある。

	回答数	構成比
満足	47	4.4%
どちらかといえば満足	277	26.0%
どちらかといえば不満	296	27.8%
不満	168	15.7%
わからない	185	17.3%
無回答	94	8.8%
計	1,067	100.0%

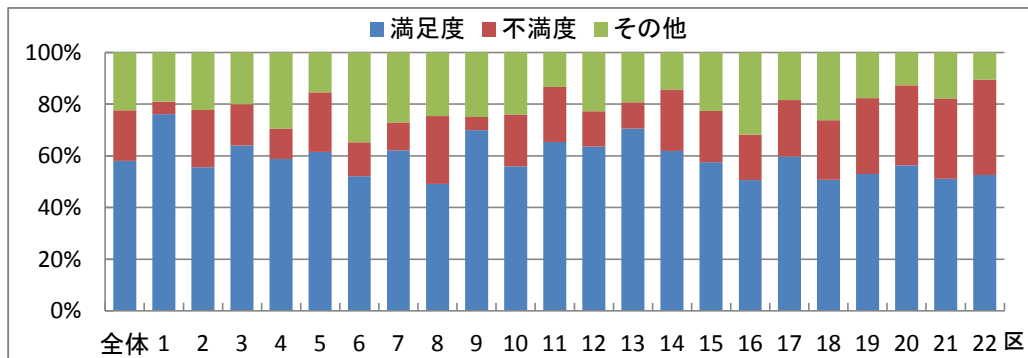
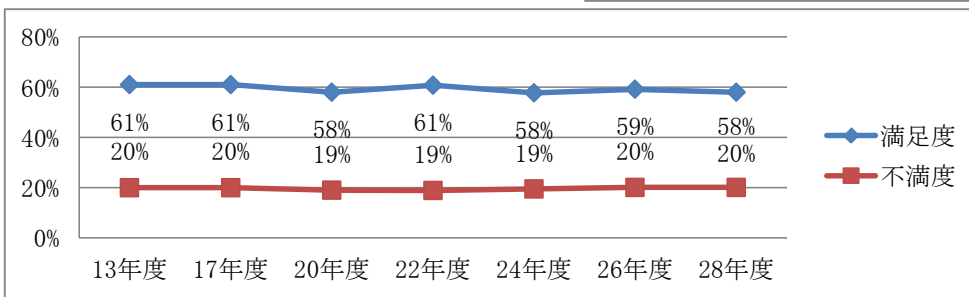
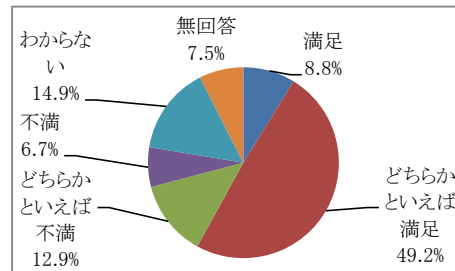


15. 公民館など地域の施設

「満足」（8.8%）と「どちらかといえば満足」（49.2%）の合計が58.0%で、前回の調査結果と比較すると1.2ポイント減少し、「不満」（6.7%）と「どちらかといえば不満」（12.9%）の合計も、19.6%で0.6ポイント減少している。このことから、施設の利用に対して市民の関心が低下していることがうかがえる。

地域住民の集いの場でもある公民館は、生涯学習のほか、世代間交流の場などにも利用されていることから、今後も学校・家庭・地域の連携の拠点としての活用を推進し、利用者の利便性を図る必要がある。

	回答数	構成比
満足	94	8.8%
どちらかといえば満足	525	49.2%
どちらかといえば不満	138	12.9%
不満	72	6.7%
わからない	159	14.9%
無回答	79	7.5%
計	1,067	100.0%



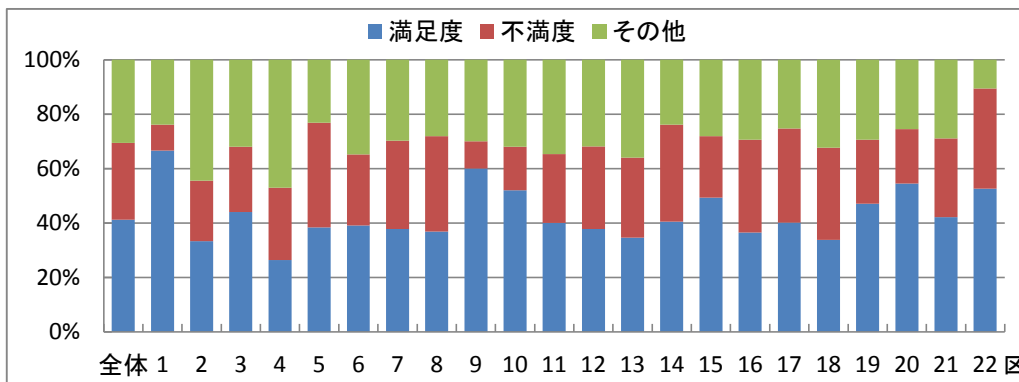
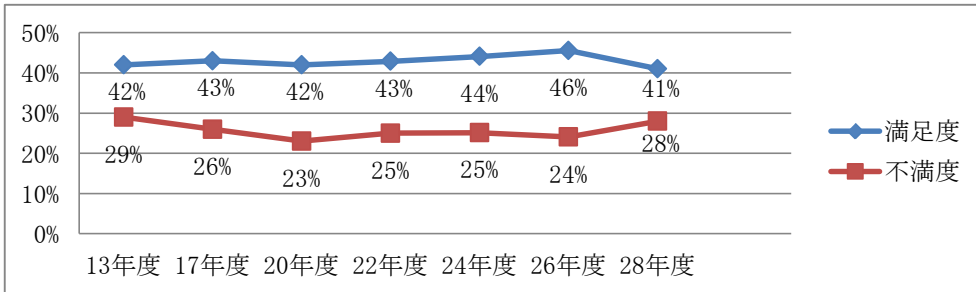
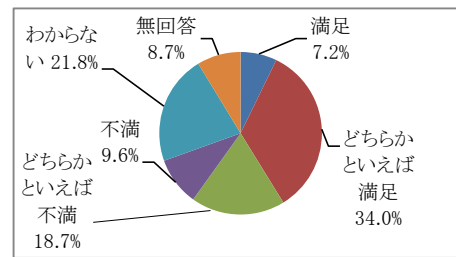
16. 体育館などの運動施設

「満足」（7.2%）と「どちらかといえば満足」（34.0%）の合計が41.2%で、「不満」（9.6%）と「どちらかといえば不満」（18.7%）の合計が28.3%と、利用者からはおおむね良好な数字と考えられる。

前回調査と比較した場合では、満足度は4.4ポイント減少し、不満足度は3.2ポイント上昇している。

この結果を受け、今後全般的に老朽化が進んでいる体育施設の安全管理を徹底するとともに、時代ニーズにあった体育施設の改修などについても検討していく必要がある。

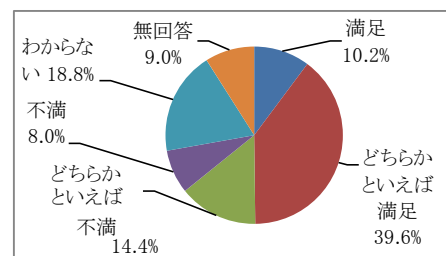
	回答数	構成比
満足	77	7.2%
どちらかといえば満足	363	34.0%
どちらかといえば不満	199	18.7%
不満	102	9.6%
わからない	233	21.8%
無回答	93	8.7%
計	1,067	100.0%

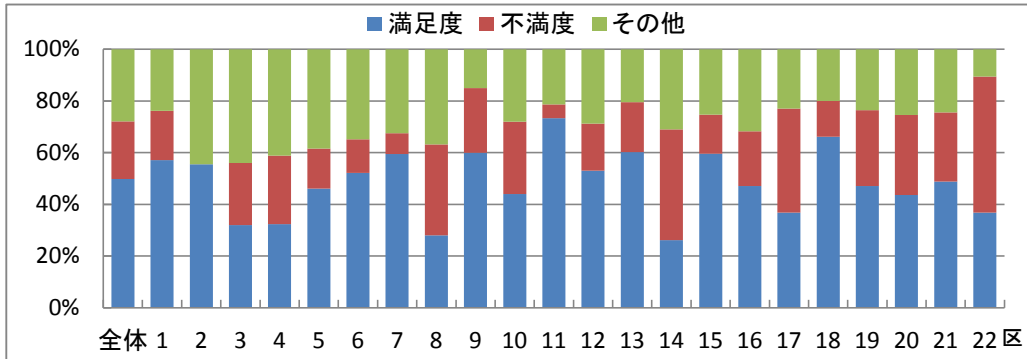
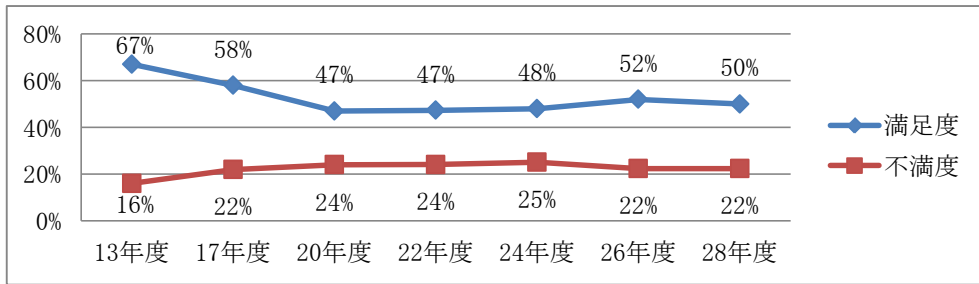


17. 幼稚園、小・中学校の通園、通学の便

「満足」(10.2%)と「どちらかといえば満足」(39.6%)を合計した満足度は49.8%で、前回調査と比べ2.2ポイントの減である。また、「不満」(8.0%)と「どちらかといえば不満」(14.4%)を合わせた不満度が22.4%で、前回と同じとなっている。幼稚園、小中学校の適正配置により通園・通学の距離が長くなった家庭もあるため、引き続き適正配置の長所について理解を得られるよう、教育環境の一層の充実に努めていきたい。

	回答数	構成比
満足	109	10.2%
どちらかといえば満足	422	39.6%
どちらかといえば不満	154	14.4%
不満	85	8.0%
わからない	201	18.8%
無回答	96	9.0%
計	1,067	100.0%



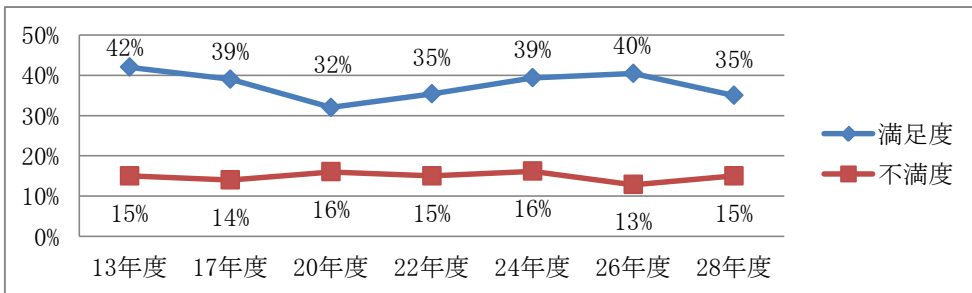
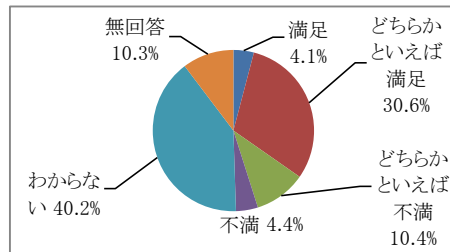


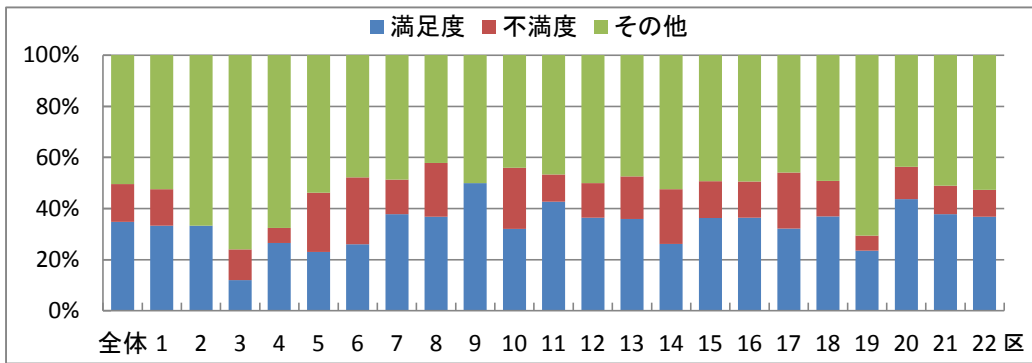
18. 学校の施設整備について

「満足」(4.1%)「どちらかといえば満足」(30.6%)の合計は34.7%で、前回調査から約5.8ポイント下回り、「不満」(4.4%)「どちらかといえば不満」(10.4%)の合計のは14.8%で、約4.3ポイント上回った。また、「わからない」(40.2%)に「無回答」(10.3%)を加える50.5%となっている。

子供がいる家庭では、授業参観などで学校を訪れる機会があり、学校施設の状況が分かると思われるが、子供がいない家庭や子供が巣立った家庭では、学校へ行く機会もほとんどなく、施設整備の状況が分からない市民も多くいることがうかがえる。

	回答数	構成比
満足	44	4.1%
どちらかといえば満足	327	30.6%
どちらかといえば不満	111	10.4%
不満	47	4.4%
わからない	428	40.2%
無回答	110	10.3%
計	1,067	100.0%





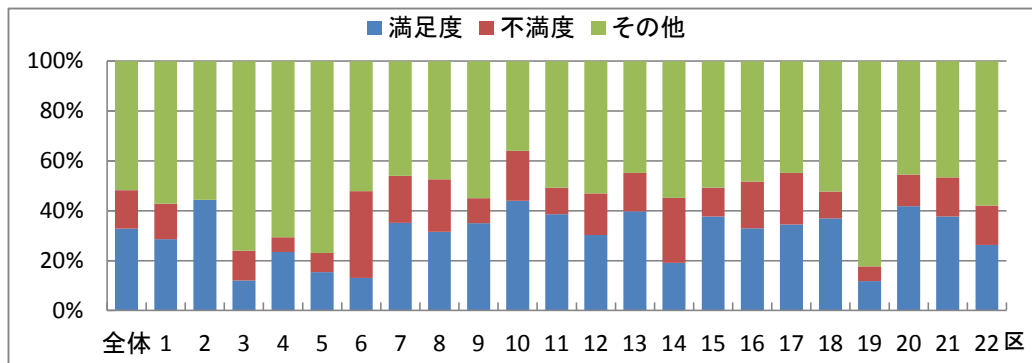
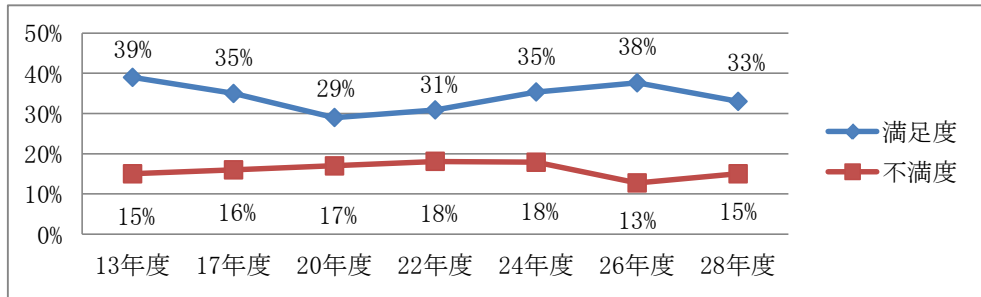
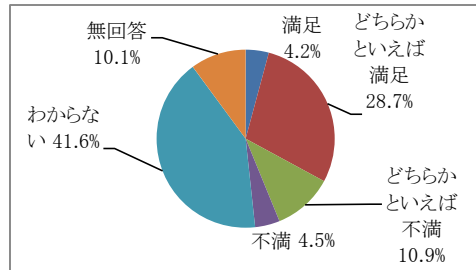
19. 保育施設整備について

「満足」(4.2%)と「どちらかといえば満足」(28.7%)の合計は32.9%、「不満」(4.5%)と「どちらかといえば不満」(10.9%)の合計は15.4%となっており、満足度は不満度を17.5ポイント上回っている。しかし、前回の調査結果と比較すると、満足度は4.7ポイント減少し、不満度は2.7ポイント増加している。

現在、本市には保育園の待機児童はいないため、保育施設の供給量は確保されており、保育施設の質的要因がこの結果の原因と考えられる。

本市では、整備計画に基づいて私立保育園における施設整備に補助を行い、保育環境の向上を図っているところであるが、今後も、保育ニーズに対応して保育施設の整備を一層推進していきたい。

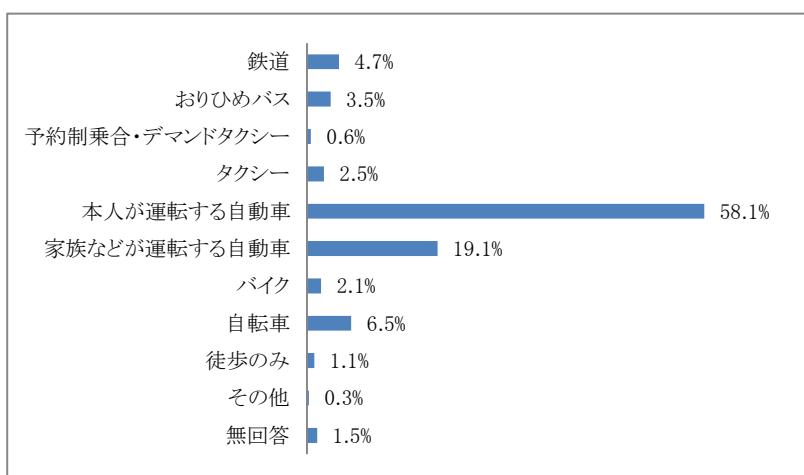
	回答数	構成比
満足	45	4.2%
どちらかといえば満足	306	28.7%
どちらかといえば不満	116	10.9%
不満	48	4.5%
わからない	444	41.6%
無回答	108	10.1%
計	1,067	100.0%



問9 日常の移動手段には何を利用していますか。(複数回答可)

「本人が運転する自動車を利用している人」が58.1%と最も多く、「家族などが運転する車を利用する人」は19.1%となっており、日常の移動手段の8割近くが自家用車で移動していることが分かった。各公共交通機関を利用している人は、すべて合わせても10%余りという状況であった。

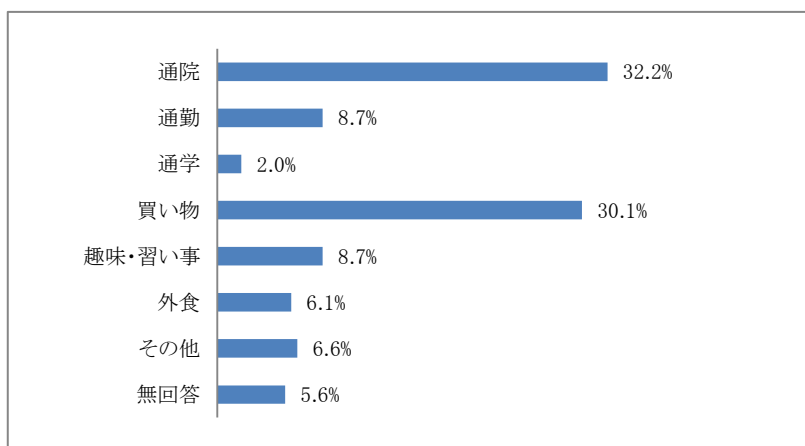
	回答数	構成比
① 鉄道	66	4.7%
② おりひめバス	49	3.5%
③ 予約制乗合・デマンドタクシー	8	0.6%
④ タクシー	35	2.5%
⑤ 本人が運転する自動車	826	58.1%
⑥ 家族などが運転する自動車	271	19.1%
⑦ バイク	30	2.1%
⑧ 自転車	92	6.5%
⑨ 徒歩のみ	16	1.1%
⑩ その他	4	0.3%
⑪ 無回答	22	1.5%
計	1,419	100.0%



問10 問9で①～④と答えた人にお聞きします。主な利用の目的は何ですか。(複数回答可)

公共交通機関を利用する人の利用目的は、通院と買い物で過半数を占め、日常生活に必要な移動手段であることが読み取れた。

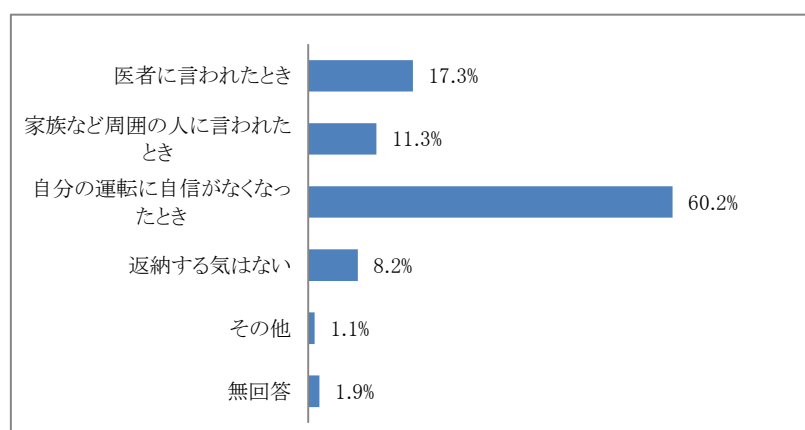
	回答数	構成比
① 通院	63	32.2%
② 通勤	17	8.7%
③ 通学	4	2.0%
④ 買い物	59	30.1%
⑤ 趣味・習い事	17	8.7%
⑥ 外食	12	6.1%
⑦ その他	13	6.6%
⑧ 無回答	11	5.6%
計	196	100.0%



問11 問9で⑤と答えた人にお聞きします。免許証を自主的に返納するとしたら、どのような場合に考えますか。

「医者に言われたとき」が17.3%、「家族など周囲の人に言われたとき」が11.3%と、他人の判断に委ねる人は28.6%に留まり、「自分の運転に自信がなくなったとき」が60.2%と、自分の判断で決める人が半数を超えた。また、「返納する気がない人」も8.2%いた。このことは、「車がないと生活が不便な環境にある」と考えている人が多いといったことが推察できる。

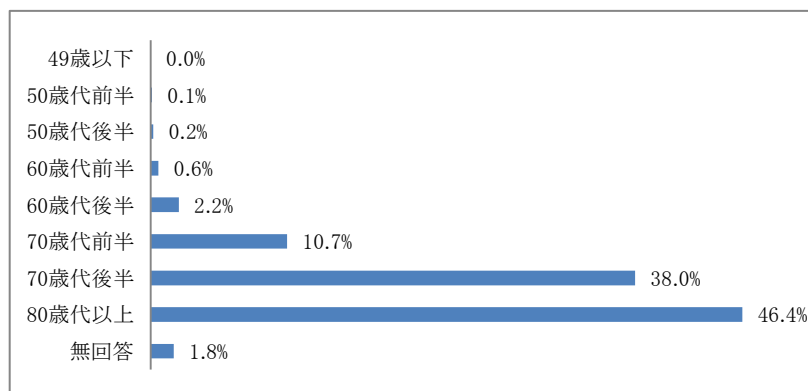
	回答数	構成比
① 医者に言われたとき	143	17.3%
② 家族など周囲の人に言われたとき	93	11.3%
③ 自分の運転に自信がなくなったとき	497	60.2%
④ 返納する気はない	68	8.2%
⑤ その他	9	1.1%
⑥ 無回答	16	1.9%
計	826	100.0%



問12 (問9で⑤と答えた人にお聞きします。)自分で運転をしなくなる時期は何歳頃だと思いますか。

「70歳代後半」が38.0%、「80歳代以上」が46.4%と、84.4%の人が後期高齢者となる年齢を迎えるまでは自分で運転を続ける意思があることが分かった。

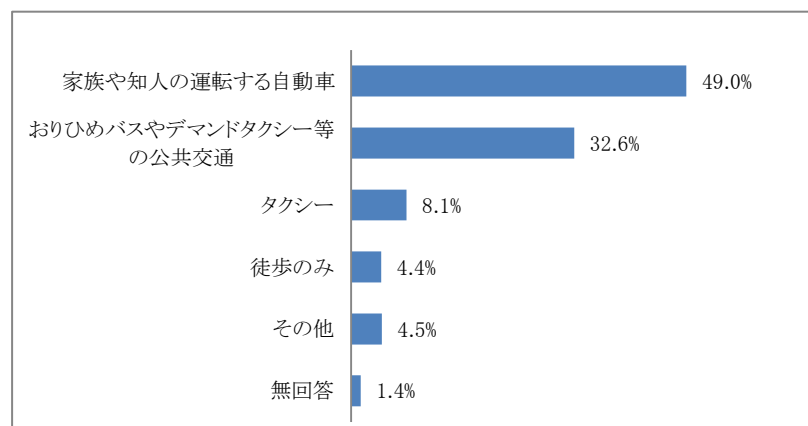
		回答数	構成比
①	49歳以下	0	0.0%
②	50歳代前半	1	0.1%
③	50歳代後半	2	0.2%
④	60歳代前半	5	0.6%
⑤	60歳代後半	18	2.2%
⑥	70歳代前半	88	10.7%
⑦	70歳代後半	314	38.0%
⑧	80歳代以上	383	46.4%
⑨	無回答	15	1.8%
	計	826	100.0%



問13（問9で⑤と答えた人にお聞きします。）自分で運転をしなくなった後の主な移動は、どのような手段が考えられますか。

「家族や知人の運転する自動車」と答えた人が49.0%と最も多く、次いで、「バスやデマンドタクシーなどの公共交通機関」を利用する人が32.6%、タクシーに頼る人は8.1%であった。自分で運転できなくなった後は、バスなどの公共交通機関を利用したいと考えている人が相当数いることが分かった。

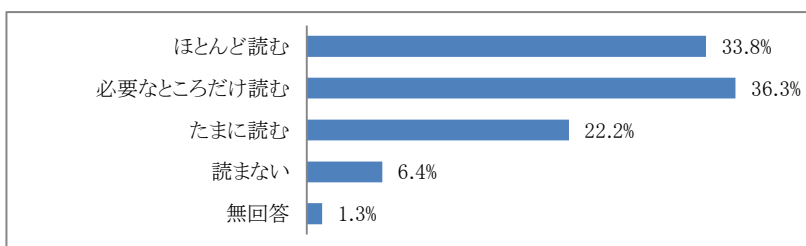
		回答数	構成比
①	家族や知人の運転する自動車	405	49.0%
②	おりひめバスやデマンドタクシー等の公共交通	269	32.6%
③	タクシー	67	8.1%
④	徒歩のみ	36	4.4%
⑤	その他	37	4.5%
⑥	無回答	12	1.4%
	計	826	100.0%



問14 あなたは、「広報きりゅう」を読んでいますか。

広報きりゅうを「ほとんど読む」(33.8%)と「必要なところだけ読む」(36.3%)、「たまに読む」(22.2%)を合計すると92.3%と、多くの人が市政情報を得るための手段として広報きりゅうを活用していることがわかった。今回の調査から市政情報を得るために広報きりゅうが有効に活用されていると考えられるが、今後も広報きりゅうの内容の充実を図り、市民の求める情報をわかりやすく伝えていく必要がある。

	回答数	構成比
① ほとんど読む	361	33.8%
② 必要なところだけ読む	387	36.3%
③ たまに読む	237	22.2%
④ 読まない	68	6.4%
⑤ 無回答	14	1.3%
計	1,067	100.0%

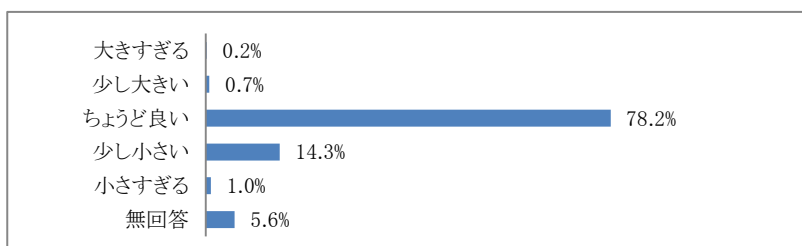


問15 「広報きりゅう」の本文に使用している文字の大きさはどうですか。

広報きりゅうの文字の大きさについて、「ちょうど良い」との回答が78.2%であり、多くの人が文字の大きさに不満を持っていないものの、「少し小さい」(14.3%)、「小さすぎる」(1.0%)を合わせると15.3%の人が文字を小さく感じている状況である。

文字の大きさについては、多くの人が満足している状態であることから、すぐに改善を要する課題とは言えないものの、今後、さらに市民の高齢化が進むことが予想され、文字の大きさを見直すことは、今後の検討課題となると考えられる。

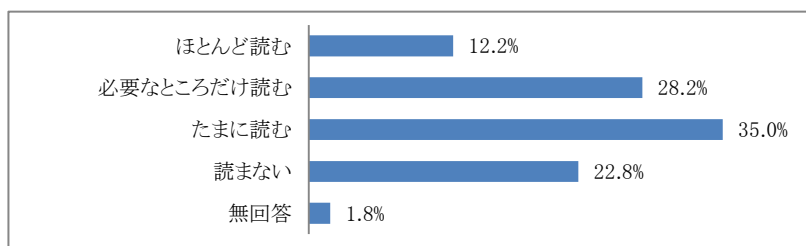
	回答数	構成比
① 大きすぎる	2	0.2%
② 少し大きい	8	0.7%
③ ちょうど良い	834	78.2%
④ 少し小さい	153	14.3%
⑤ 小さすぎる	11	1.0%
⑥ 無回答	59	5.6%
計	1,067	100.0%



問16 あなたは、「市議会だより」を読んでいますか。

「たまに読む」が35.0%と最も多く、さらに「必要などころだけ読む」(28.2%)と「ほとんど読む」(12.2%)を合わせると75.4%であり7割を超える人が、市議会だよりに目を通してることがうかがえる。一方「読まない」と回答した人は22.8%であり、今後、読んでみようと思ってもらえる紙面づくりについて研究していく必要がある。

		回答数	構成比
①	ほとんど読む	130	12.2%
②	必要などころだけ読む	301	28.2%
③	たまに読む	373	35.0%
④	読まない	243	22.8%
⑤	無回答	20	1.8%
	計	1,067	100.0%

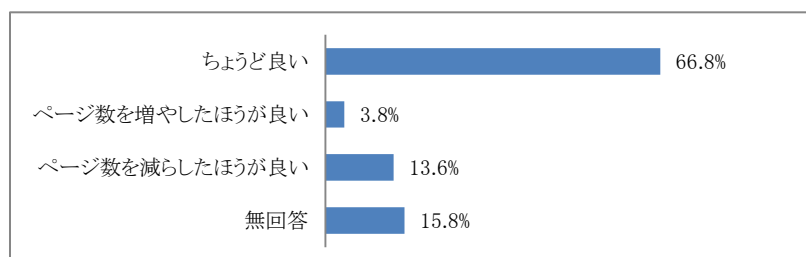


問17 毎定例会ごとに8ページモノクロ印刷で発行していますが、ページ数や色彩についてどう思いますか。

<ページ数について>

「ちょうど良い」が66.8%を占めており、「減らしたほうが良い」が13.6%、「増やしたほうが良い」が3.8%という結果になった。このことから、ページ数については、適切であると考えているが、問16の「今後、読んでみようと思ってもらえる紙面づくり」を目指す中で、改めて研究していく必要がある。

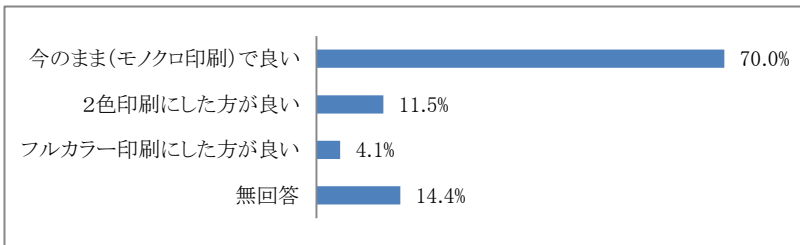
		回答数	構成比
①	ちょうど良い	713	66.8%
②	ページ数を増やしたほうが良い	41	3.8%
③	ページ数を減らしたほうが良い	145	13.6%
④	無回答	168	15.8%
	計	1,067	100.0%



<色彩について>

「今のまま（モノクロ印刷）が良い」が70.0%を占めており、「2色印刷が良い」が11.5%、「フルカラー印刷が良い」が4.1%という結果になった。このことから、色彩については、「今のままで良い」と考えるが、問16の「今後、読んでみようと思ってもらえる紙面づくり」を目指す中で、色彩について改めて研究していく必要がある。

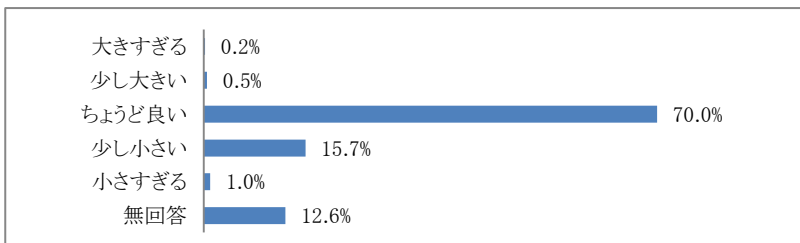
		回答数	構成比
①	今のまま（モノクロ印刷）が良い	747	70.0%
②	2色印刷にした方が良い	123	11.5%
③	フルカラー印刷にした方が良い	44	4.1%
④	無回答	153	14.4%
	計	1,067	100.0%



問18 「市議会だより」の本文に使用している文字の大きさはどうですか。

「ちょうど良い」が70.0%を占めており、「少し小さい」が15.7%、「小さすぎる」が1.0%という結果になった。このことから、文字の大きさについては、適切であると考えられるが、問16の「今後、読んでみようと思ってもらえる紙面づくり」を目指す中で、改めて研究していく必要がある。

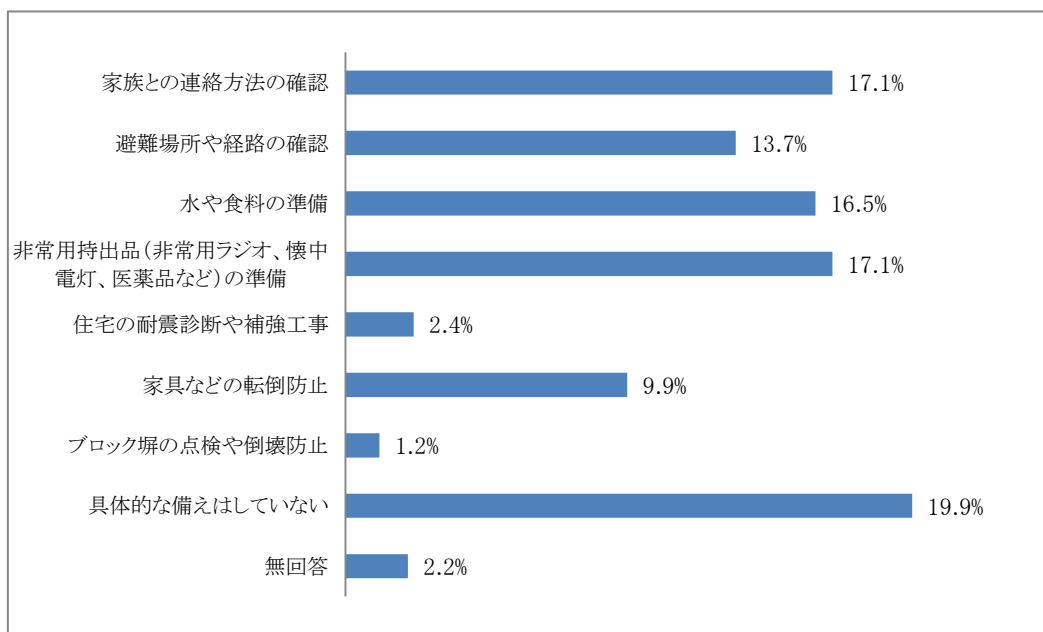
		回答数	構成比
①	大きすぎる	2	0.2%
②	少し大きい	5	0.5%
③	ちょうど良い	747	70.0%
④	少し小さい	168	15.7%
⑤	小さすぎる	11	1.0%
⑥	無回答	134	12.6%
	計	1,067	100.0%



問19 日頃から、どのような備えをしていますか。(複数回答可)

前回調査に比べ、「家族との連絡方法の確認」や「避難場所や経路の確認」など、家族での災害への備えが増えている項目もあるが、「具体的な備えはしていない」という回答も多く、家庭における備えが十分ではない結果となった。今後も様々な機会を捉えて啓発を続け、家庭における防災意識の高揚に努めていく必要がある。

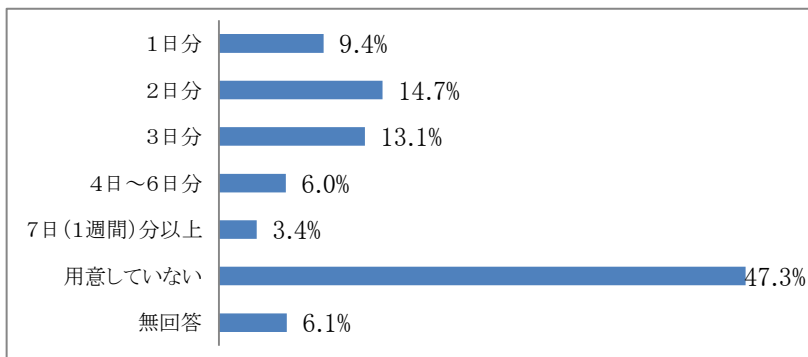
	回答数	構成比
① 家族との連絡方法の確認	318	17.1%
② 避難場所や経路の確認	255	13.7%
③ 水や食料の準備	306	16.5%
④ 非常用持出品(非常用ラジオ、懐中電灯、医薬品など)の準備	318	17.1%
⑤ 住宅の耐震診断や補強工事	44	2.4%
⑥ 家具などの転倒防止	183	9.9%
⑦ ブロック塀の点検や倒壊防止	22	1.2%
⑧ 具体的な備えはしていない	370	19.9%
⑨ 無回答	40	2.2%
計	1,856	100.0%



問20 水(1人1日3リットル)や食料は家族何日分の備蓄をしていますか。

水や食料の備蓄については、2~3日分が27.8%、4日以上が9.4%、用意していない人が47.3%と、備えが十分でない結果となった。さらなる啓発に努めていく必要がある。

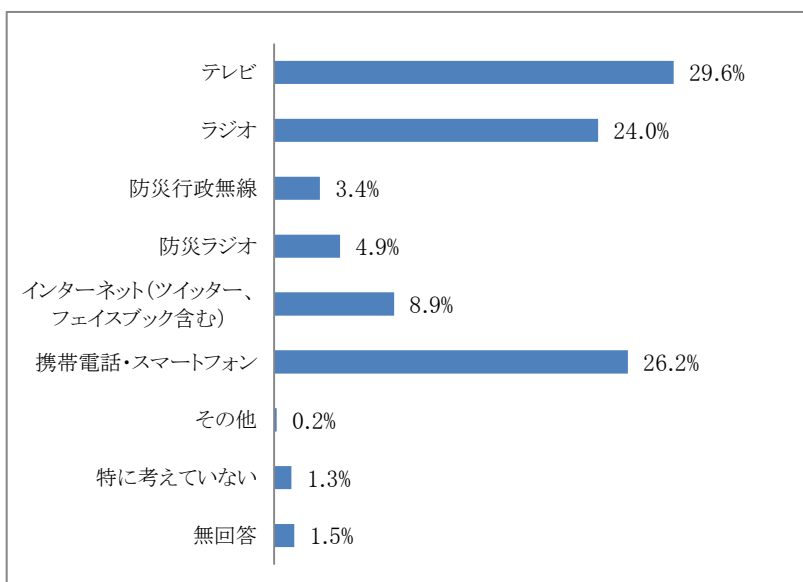
		回答数	構成比
①	1日分	100	9.4%
②	2日分	157	14.7%
③	3日分	140	13.1%
④	4日～6日分	64	6.0%
⑤	7日（1週間）分以上	36	3.4%
⑥	用意していない	505	47.3%
⑦	無回答	65	6.1%
	計	1,067	100.0%



問21 災害時に情報を入手する方法は何ですか。（複数回答可）

回答の多い順から、「テレビ」29.6%、「携帯電話・スマートフォン」26.2%、「ラジオ」24.0%が上位を占めた。市からの防災情報伝達手段は複数用意しているが、更なる情報伝達の強化を目指すため、効果的で効率的な伝達方法の研究や市民への防災・気象情報の活用を啓発していく必要がある。

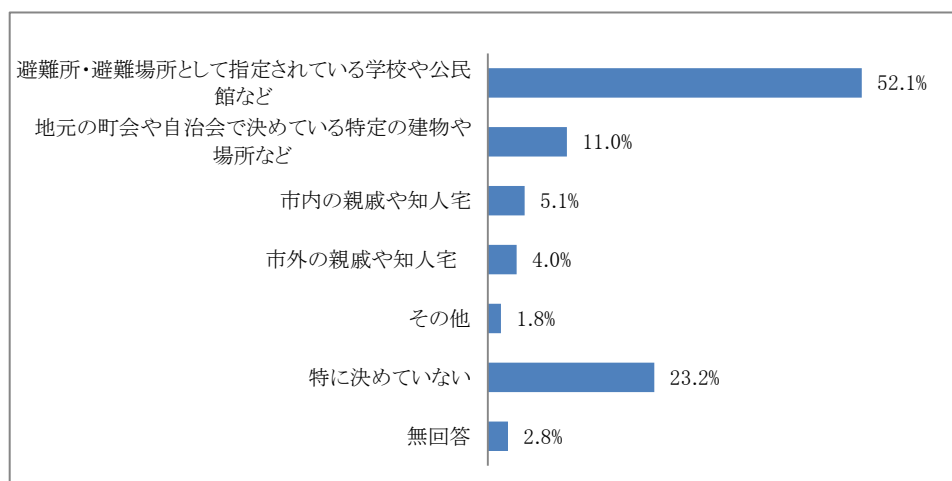
		回答数	構成比
①	テレビ	644	29.6%
②	ラジオ	524	24.0%
③	防災行政無線	75	3.4%
④	防災ラジオ	106	4.9%
⑤	インターネット（ツイッター、フェイスブック含む）	193	8.9%
⑥	携帯電話・スマートフォン	572	26.2%
⑦	その他	4	0.2%
⑧	特に考えていない	29	1.3%
⑨	無回答	33	1.5%
	計	2,180	100.0%



問22 自宅以外へ避難しなければならない事態に備えて、どこへ避難するか決めていますか。また、決めている場合、どこへ避難しますか。(複数回答可)

自宅以外へ避難しなければならない事態に備えて、「学校や公民館」、「特定の建物や場所」など、どこへ避難するか決めている人も多いが、「特に決めていない」との回答も23.2%となっている。今後も、避難場所や避難経路の事前確認の必要性を啓発していく必要がある。

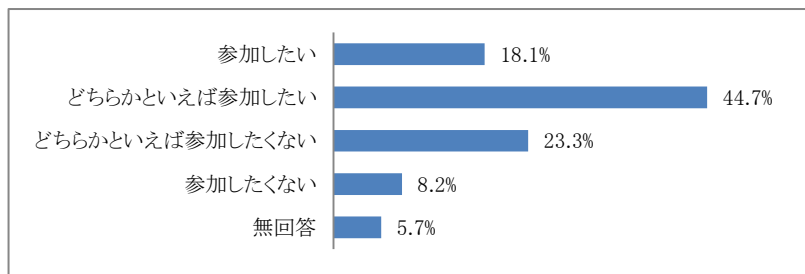
	回答数	構成比
① 避難所・避難場所として指定されている学校や公民館など	637	52.1%
② 地元の町会や自治会で決めている特定の建物や場所など	135	11.0%
③ 市内の親戚や知人宅	62	5.1%
④ 市外の親戚や知人宅	49	4.0%
⑤ その他	22	1.8%
⑥ 特に決めていない	283	23.2%
⑦ 無回答	34	2.8%
計	1,222	100.0%



問23 災害に対しては、地域住民が自主的に連帯して防災活動を行うことが必要です。こういった地域防災活動に参加したいと思いますか。

「参加したい」、「どちらかといえば参加したい」と回答した人が62.8%で、前回調査から6.8ポイント増加しており、地域防災（共助）に対する理解が深まっていると考えられる。今後も自主防災組織の活動を支援するとともに、自主防災組織の未組織地域に対して、自主防災活動の必要性について啓発していく必要がある。

	回答数	構成比
① 参加したい	193	18.1%
② どちらかといえば参加したい	477	44.7%
③ どちらかといえば参加したくない	249	23.3%
④ 参加したくない	87	8.2%
⑤ 無回答	61	5.7%
計	1,067	100.0%

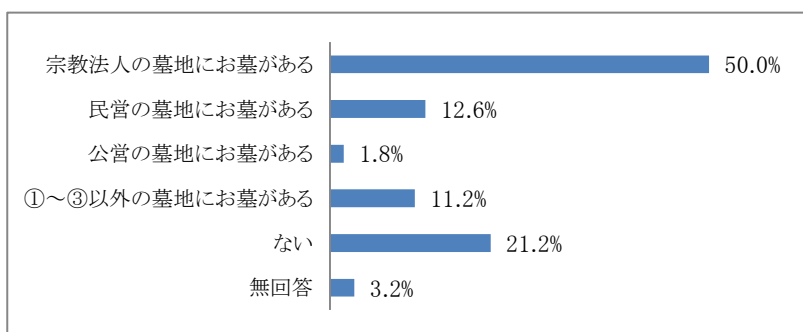


問24 あなたには利用できるお墓がありますか。

「宗教法人の墓地にお墓がある」(50.0%)、「民営の墓地にお墓がある」(12.6%)、「公営の墓地にお墓がある」(1.8%)、「それ以外の墓地にお墓がある」(11.2%)と回答した人は合計で75.6%であった一方で、利用できるお墓が「ない」と回答した人は21.2%であった。

前回と比較してお墓がある人は3ポイント増で、ない人は1.6ポイント減となった。

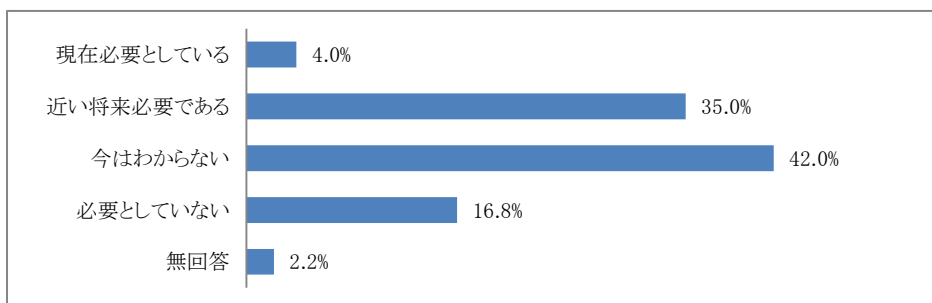
		回答数	構成比
①	宗教法人の墓地にお墓がある	534	50.0%
②	民営の墓地にお墓がある	134	12.6%
③	公営の墓地にお墓がある	19	1.8%
④	①～③以外の墓地にお墓がある	120	11.2%
⑤	ない	226	21.2%
⑥	無回答	34	3.2%
	計	1067	100.0%



問25 問24で⑤と答えた人にお聞きします。あなたはお墓を必要としていますか。

問24において、利用できるお墓が「ない」(21.2%)と回答した人のうち、「現在必要としている」(4.0%)と「近い将来必要である」(35.0%)と回答した人は、合計で39.0%で、全回答者の8.2パーセントであった。

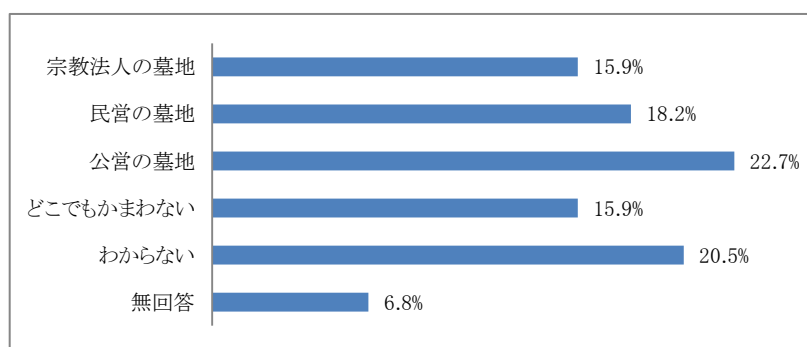
		回答数	構成比
①	現在必要としている	9	4.0%
②	近い将来必要である	79	35.0%
③	今はわからない	95	42.0%
④	必要としていない	38	16.8%
⑤	無回答	5	2.2%
	計	226	100.0%



問26 問25で①、②と答えた人にお聞きします。あなたはどの経営主体の墓地にお墓を希望しますか。

お墓を必要としている人の中で、経営主体を「公営の墓地」と希望した人は22.7%で一番高く、以下「民営の墓地」（18.2%）、「宗教法人の墓地」（15.9%）と「どこでもかまわない」（15.9%）が同率という結果となった。前回と比較して「公営の墓地」が11ポイント減となり、「民営の墓地」が12.1ポイント増、「宗教法人の墓地」が0.4ポイント減、「どこでもかまわない」が0.6ポイント増となった。

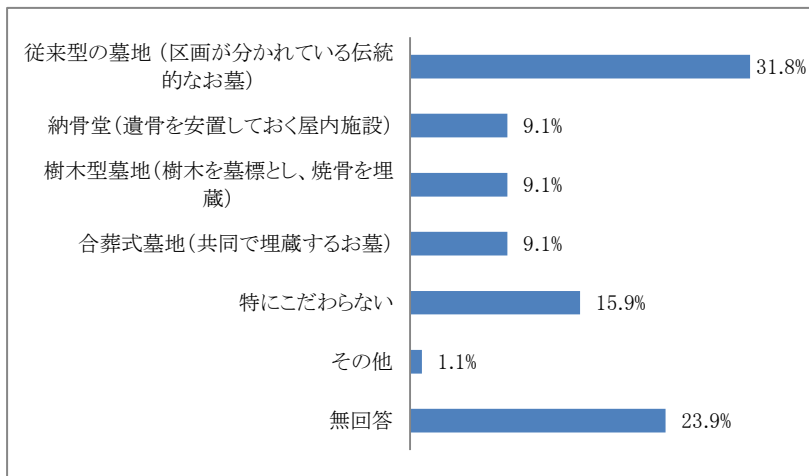
		回答数	構成比
①	宗教法人の墓地	14	15.9%
②	民営の墓地	16	18.2%
③	公営の墓地	20	22.7%
④	どこでもかまわない	14	15.9%
⑤	わからない	18	20.5%
⑥	無回答	6	6.8%
	計	88	100.0%



問27 問25で①、②と答えた人にお聞きします。あなたはどの形態のお墓を希望しますか

お墓を必要としている人の中で、お墓の形態を「従来型の墓地」と希望した人は31.8%で一番高く、以下「特にこだわらない」（15.9%）、「納骨堂」（9.1%）、「樹木型墓地」（9.1%）、「合葬式墓地」（9.1%）が同率という結果となった。これらの結果については、今後の参考にしたい。

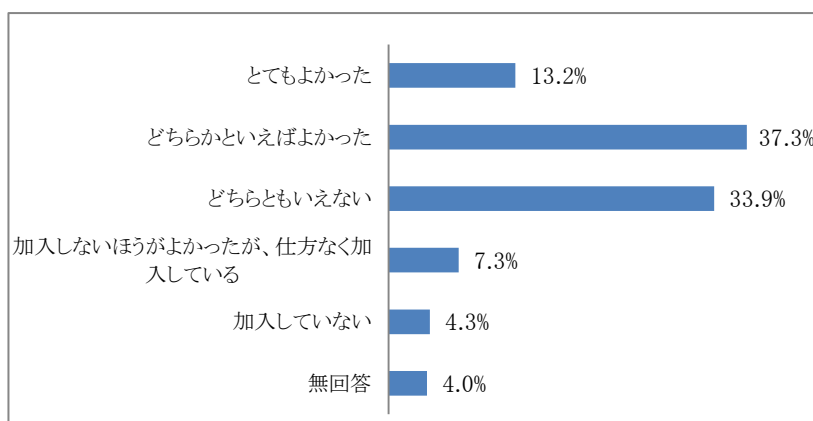
		回答数	構成比
①	従来型の墓地（区画が分かれている伝統的なお墓）	28	31.8%
②	納骨堂（遺骨を安置しておく屋内施設）	8	9.1%
③	樹木型墓地（樹木を墓標とし、焼骨を埋蔵）	8	9.1%
④	合葬式墓地（共同で埋蔵するお墓）	8	9.1%
⑤	特にこだわらない	14	15.9%
⑥	その他	1	1.1%
⑦	無回答	21	23.9%
	計	88	100.0%



問28 あなたは、自治会・町会等に加入してよかったと思いますか。

「とてもよかった」(13.2%)、「どちらかといえばよかった」(37.3%)の合計が50.5%で約半数が自治会への加入に好意的だが、「加入しないほうがよかったが、仕方なく加入している」(7.3%)、「加入していない」(4.3%)の合計が1割を超える結果となっている。また、「どちらともいえない」(33.9%)が3割を超えていることから、自治会へ加入することのメリットを周知していく必要がある。

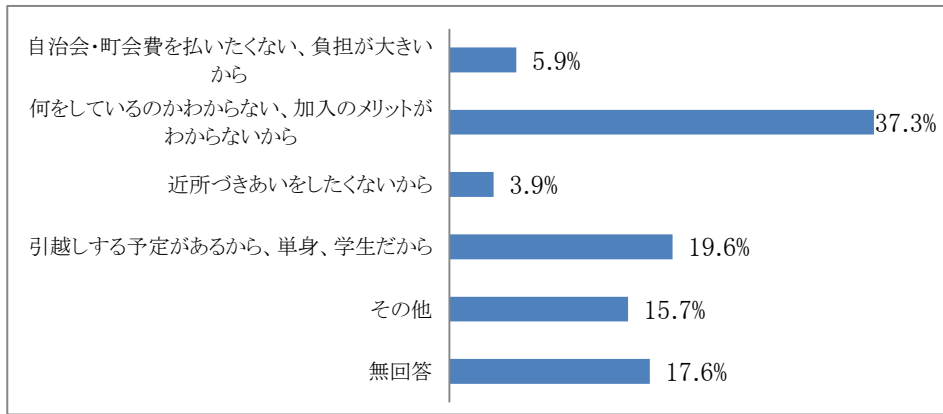
	回答数	構成比
① とてもよかった	141	13.2%
② どちらかといえばよかった	398	37.3%
③ どちらともいえない	362	33.9%
④ 加入しないほうがよかったが、仕方なく加入している	78	7.3%
⑤ 加入していない	46	4.3%
⑥ 無回答	42	4.0%
計	1,067	100.0%



問29 問28で⑤と答えた人にお聞きします。あなたが自治会・町会に加入しない理由はどのようなことですか。(複数回答可)

「何をしているのかわからない、加入のメリットがわからないから」(37.3%)が多いことから、今後さらに自治会加入のメリットを周知していく必要がある。

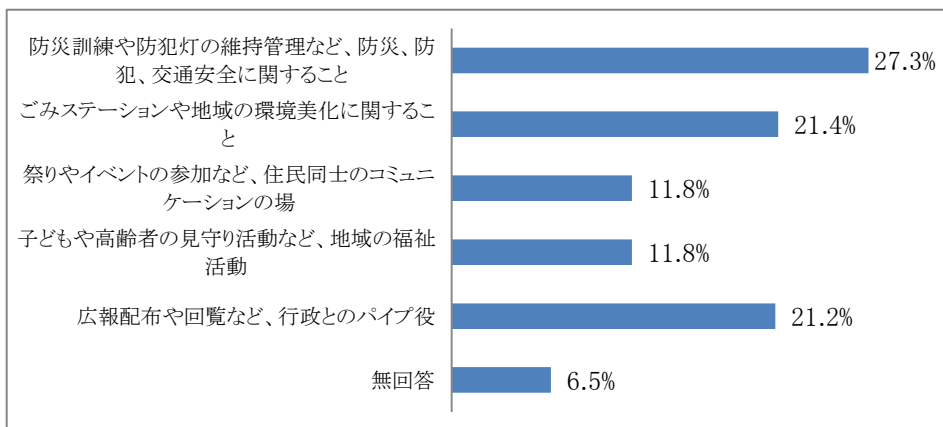
	回答数	構成比
① 自治会・町会費を払いたくない、負担が大きいから	3	5.9%
② 何をしているのかわからない、加入のメリットがわからないから	19	37.3%
③ 近所づきあいをしたくないから	2	3.9%
④ 引越する予定があるから、単身、学生だから	10	19.6%
⑤ その他	8	15.7%
⑥ 無回答	9	17.6%
計	51	100.0%



問30 自治会・町会の最も重要な役割は、どのようなことだと思いますか。

「防災、防犯、交通安全に関すること」(27.3%)が最も多く、防災等安全安心に対する自治会の取り組みに期待が最も大きい。次いで「環境美化に関すること」(21.4%)、「行政とのパイプ役」(21.2%)も2割を超えている。

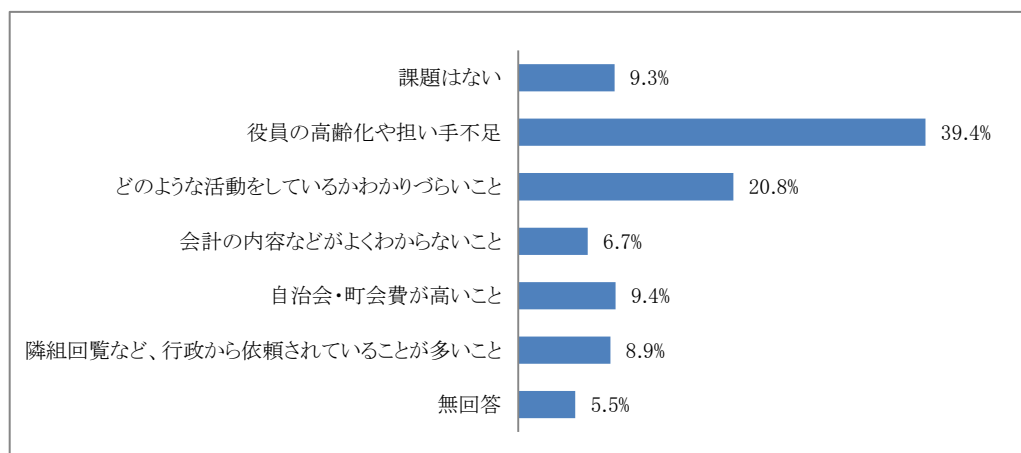
		回答数	構成比
①	防災訓練や防犯灯の維持管理など、防災、防犯、交通安全に関すること	292	27.3%
②	ごみステーションや地域の環境美化に関すること	228	21.4%
③	祭りやイベントの参加など、住民同士のコミュニケーションの場	126	11.8%
④	子どもや高齢者の見守り活動など、地域の福祉活動	126	11.8%
⑤	広報配布や回覧など、行政とのパイプ役	226	21.2%
⑥	無回答	69	6.5%
	計	1,067	100.0%



問31 自治会・町会に課題があるとすれば、どのようなことだと思いますか。
(複数回答可)

「役員の高齢化や担い手不足」(39.4%)が最も多く、市民生活課で実施した区長・自治会長を対象としたアンケート調査でも同様のことを課題とする回答・意見が多く、深刻化していることがうかがえる。一方「どのような活動をしているかわかりづらいこと」(20.8%)が2割を超えていることから、活動・運営情報の開示や周知が円滑に行えるような体制づくりを支援していく必要がある。

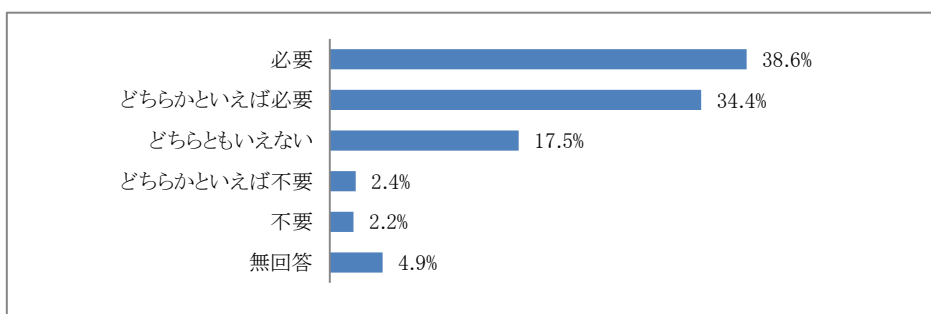
	回答数	構成比
① 課題はない	136	9.3%
② 役員の高齢化や担い手不足	576	39.4%
③ どのような活動をしているかわかりづらいこと	304	20.8%
④ 会計の内容などがよくわからないこと	98	6.7%
⑤ 自治会・町会費が高いこと	138	9.4%
⑥ 隣組回覧など、行政から依頼されていることが多いこと	131	8.9%
⑦ 無回答	81	5.5%
計	1,464	100.0%



問32 地震や水害、火災予防などの防災対策のために、自治会・町会の活動は必要だと思いますか。

「必要」(38.6%)、「どちらかといえば必要」(34.4%)の合計が7割を超えており、防災対策に関し自治会の重要性が認知されていることがわかる。一方「どちらともいえない」(17.5%)も2割近くに上り、さらなる周知啓発が必要である。

	回答数	構成比
① 必要	411	38.6%
② どちらかといえば必要	367	34.4%
③ どちらともいえない	187	17.5%
④ どちらかといえば不要	26	2.4%
⑤ 不要	24	2.2%
⑥ 無回答	52	4.9%
計	1,067	100.0%

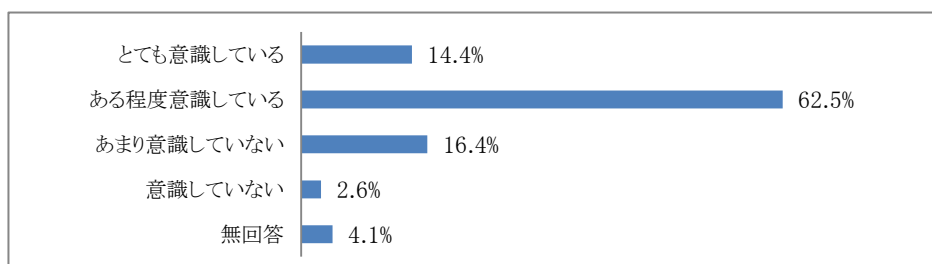


問33 地球温暖化・省エネルギー対策について日頃意識していますか。

「とても意識している」、「ある程度意識している」との回答を合わせると、76.9%となり、市民の地球温暖化・省エネルギー対策に対する関心の高さがうかがえる。特に、平均気温の上昇や局地的豪雨など、近年増加している異常気象との関連性などが報道されていることもあり、関心が高まっているものと思われる。

今後も継続して情報提供を行い、意識の普及、高揚に努めていく必要がある。

	回答数	構成比
① とても意識している	154	14.4%
② ある程度意識している	667	62.5%
③ あまり意識していない	175	16.4%
④ 意識していない	28	2.6%
⑤ 無回答	43	4.1%
計	1,067	100.0%

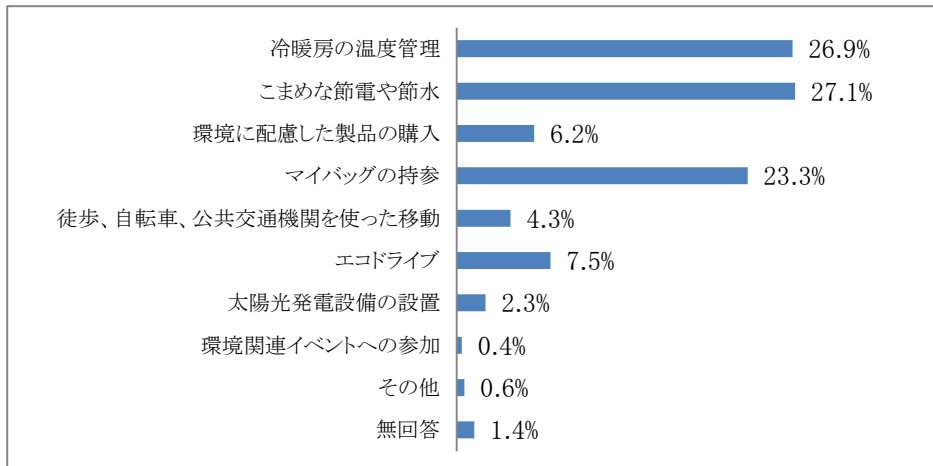


問34 個人や家庭でできる地球温暖化・省エネルギー対策として、あなたは現在どのようなことを行っていますか。(複数回答可)

「冷暖房の温度管理」、「こまめな節電や節水」、「マイバッグの持参」といった項目が上位を占めた。地球温暖化・省エネルギー対策として、日常的な取り組みを行っている市民が多いことがうかがえる。

現在、市では太陽光発電設備の設置と電動アシスト自転車購入に対する補助を実施しており、より多くの市民に活用してもらえよう今後も周知に努めたい。

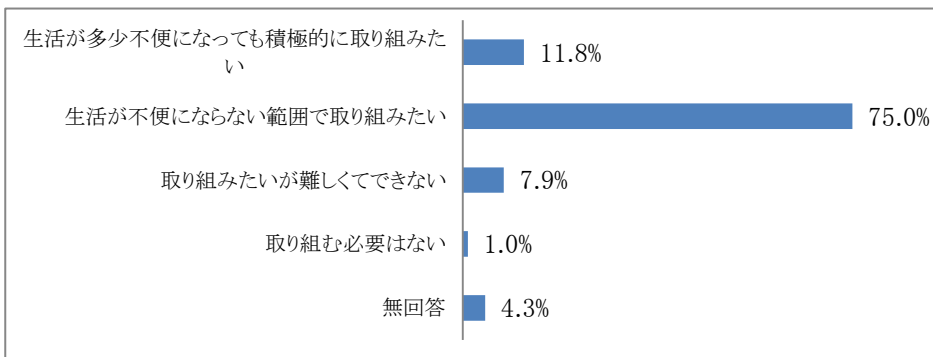
	回答数	構成比
① 冷暖房の温度管理	718	26.9%
② こまめな節電や節水	724	27.1%
③ 環境に配慮した製品の購入	166	6.2%
④ マイバッグの持参	623	23.3%
⑤ 徒歩、自転車、公共交通機関を使った移動	115	4.3%
⑥ エコドライブ	200	7.5%
⑦ 太陽光発電設備の設置	62	2.3%
⑧ 環境関連イベントへの参加	12	0.4%
⑨ その他	16	0.6%
⑩ 無回答	36	1.4%
計	2,672	100.0%



問35 今後の地球温暖化・省エネルギー対策の取り組みについてどのように考えていますか。

「生活が多少不便になっても積極的に取り組みたい」が11.8%となっているが、「生活が不便にならない範囲で取り組みたい」が75.0%にのぼっている。このことは、問34で、個人や家庭でできる地球温暖化・省エネルギー対策として「冷暖房の温度管理」、「こまめな節電や節水」、「マイバッグの持参」の項目が上位となっていることにもつながっているものと考えられる。

		回答数	構成比
①	生活が多少不便になっても積極的に取り組みたい	126	11.8%
②	生活が不便にならない範囲で取り組みたい	800	75.0%
③	取り組みたいが難しくてできない	84	7.9%
④	取り組む必要はない	11	1.0%
⑤	無回答	46	4.3%
	計	1,067	100.0%

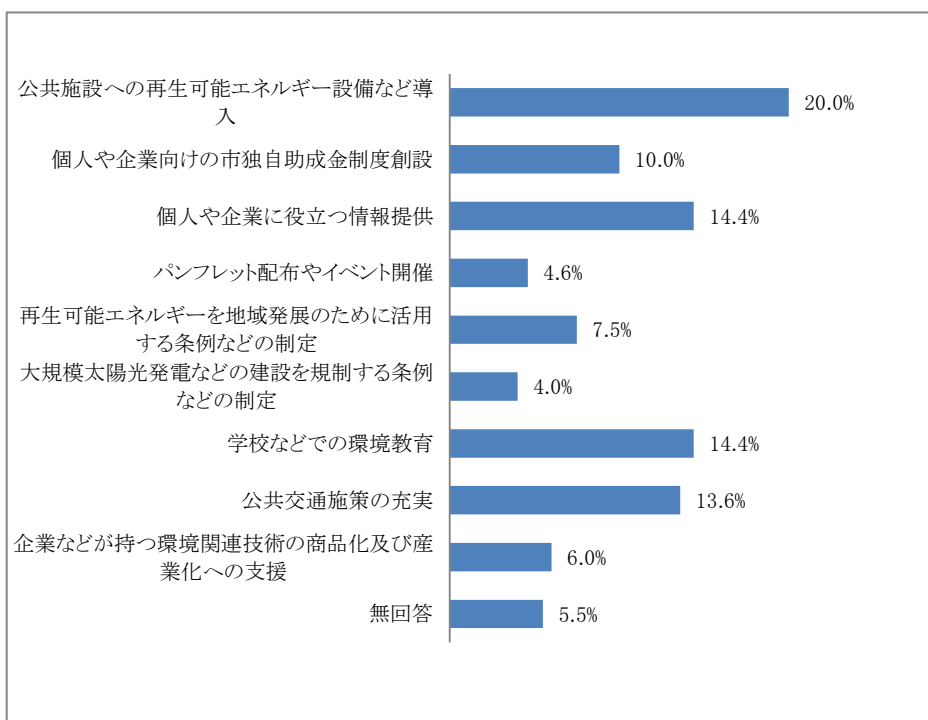


問36 本市は環境にやさしいまちづくりを一層推進するため『桐生市環境先進都市将来構想』を平成27年3月に策定し、地球温暖化・省エネルギー対策の推進や再生可能エネルギーの活用などに取り組んでいます。今後、市としてどのような取り組みを行うべきだと思いますか。（3つまで回答可）

「公共施設への再生可能エネルギー設備など導入」が20.0%と最も高く、次に「学校などでの環境教育」と「個人や企業に役立つ情報提供」がともに14.4%、「公共交通施策の充実」が13.6%、「個人や企業向けの市独自助成金制度創設」が10.0%と続き、市民が考える市が行うべき取り組みが把握できた。

今後も、桐生市環境先進都市将来構想に掲載している「再生可能エネルギーを生かした設備の積極的な導入」、「省エネルギー行動の普及啓発、幼少期からの環境教育の実践」、「公共交通の利便性の向上」などの取り組みを推進していきたい。

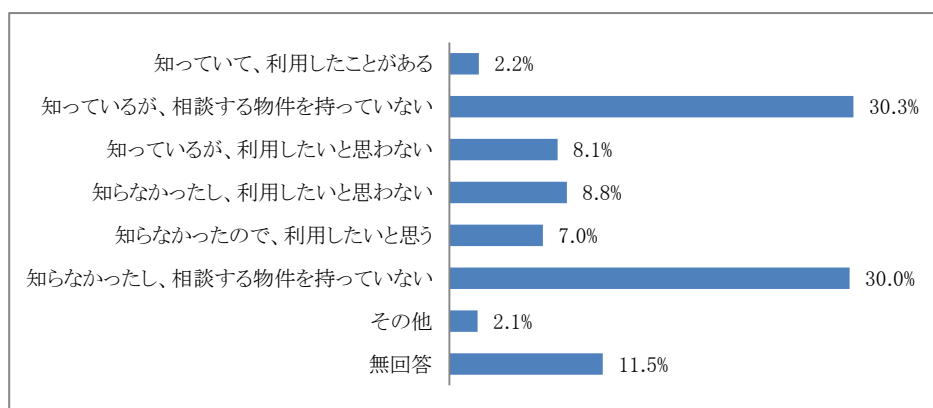
	回答数	構成比
① 公共施設への再生可能エネルギー設備など導入	441	20.0%
② 個人や企業向けの市独自助成金制度創設	220	10.0%
③ 個人や企業に役立つ情報提供	316	14.4%
④ パンフレット配布やイベント開催	101	4.6%
⑤ 再生可能エネルギーを地域発展のために活用する条例などの制定	165	7.5%
⑥ 大規模太陽光発電などの建設を規制する条例などの制定	88	4.0%
⑦ 学校などでの環境教育	316	14.4%
⑧ 公共交通施策の充実	299	13.6%
⑨ 企業などが持つ環境関連技術の商品化及び産業化への支援	131	6.0%
⑩ 無回答	124	5.5%
計	2,201	100.0%



問37 市のホームページで物件を紹介する空き家・空き地バンク事業を知っていますか。

「空き家・空き地バンク」については、前回の調査で初めて項目としたが、本事業を知っている人は前回のときに約3割であったのが、今回の調査では約4割となり、以前からの課題であった認知度については若干の上昇が見られた。

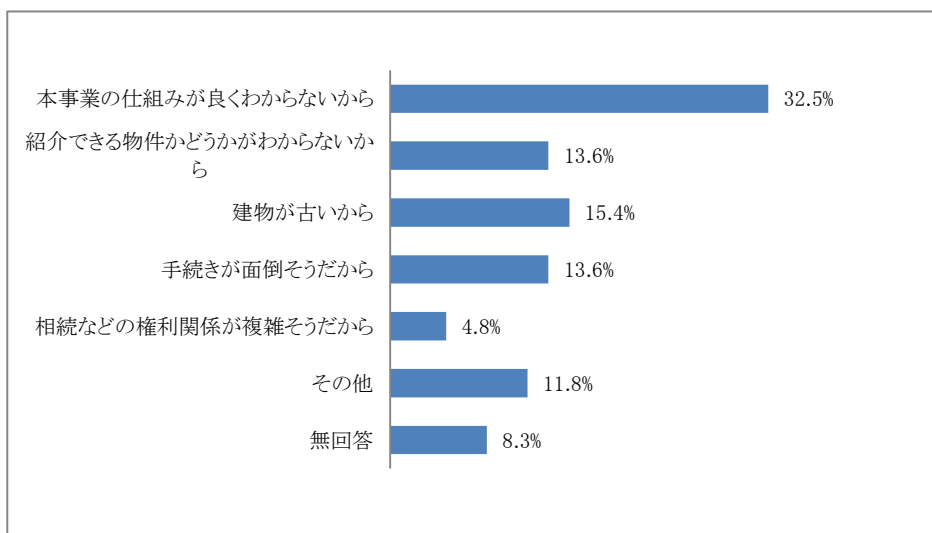
		回答数	構成比
①	知っていて、利用したことがある	24	2.2%
②	知っているが、相談する物件を持っていない	323	30.3%
③	知っているが、利用したいと思わない	86	8.1%
④	知らなかったし、利用したいと思わない	94	8.8%
⑤	知らなかったなので、利用したいと思う	75	7.0%
⑥	知らなかったし、相談する物件を持っていない	320	30.0%
⑦	その他	22	2.1%
⑧	無回答	123	11.5%
	計	1,067	100.0%



問38 問37で③・④と答えた人にお聞きします。利用してみたいと思わない理由は何ですか。(複数回答可)

前回調査と比較して、事業の仕組みや手続きの煩雑さを理由とするものが減少した一方、「紹介できる物件かどうか分からない」や「建物が古い」が2倍近くなった。これは、バンクの利用を考えるうえで流通可能な物件かどうかの判断がつかず、ちゅうちょしてしまうためと考えられる。空き家や空き地などで困っている場合には、とにかく一度相談してもらえよう、促す必要がある。

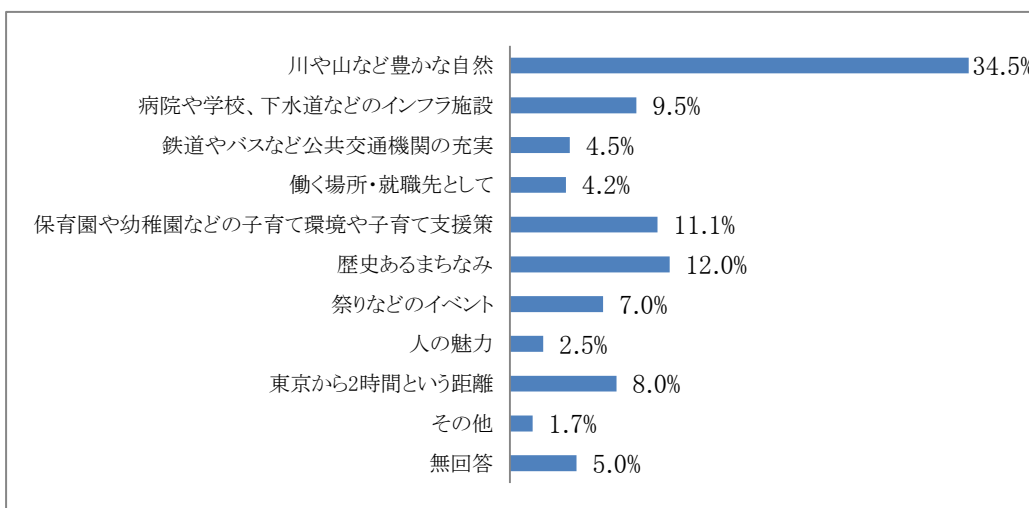
		回答数	構成比
①	本事業の仕組みが良くわからないから	74	32.5%
②	紹介できる物件かどうか分からないから	31	13.6%
③	建物が古いから	35	15.4%
④	手続きが面倒そうだから	31	13.6%
⑤	相続などの権利関係が複雑そうだから	11	4.8%
⑥	その他	27	11.8%
⑦	無回答	19	8.3%
	計	228	100.0%



問39 移住・定住を希望する方へ桐生市の魅力をPRするうえで、何が一番の魅力だと思いますか。（複数回答可）

前回調査と比較して、桐生の豊かな自然やインフラ施設を魅力と感じる回答が減少した反面、子育て環境や支援策、祭りなどの郷土色豊かなイベント、東京からの近さなどを評価する回答が増えていたことから、移住相談会などの場において、一般的に都市部在住者が魅力と感じる自然環境などに加え、今後は支援策などを積極的にPRするよう、努める必要がある。

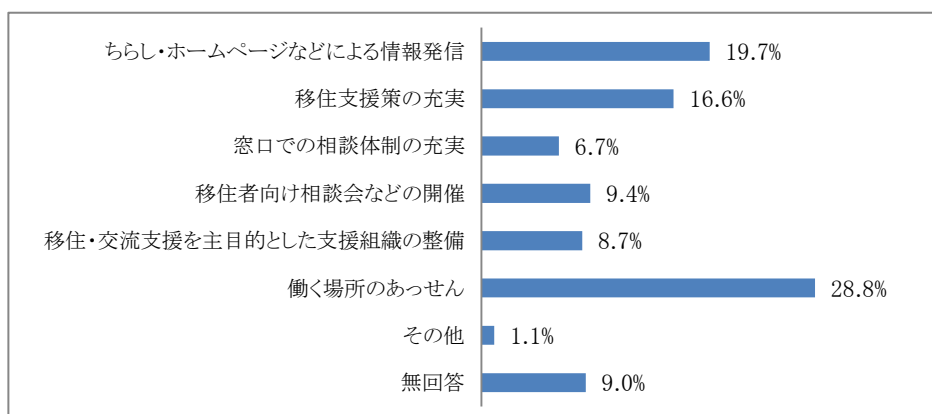
	回答数	構成比
① 川や山など豊かな自然	759	34.5%
② 病院や学校、下水道などのインフラ施設	209	9.5%
③ 鉄道やバスなど公共交通機関の充実	100	4.5%
④ 働く場所・就職先として	93	4.2%
⑤ 保育園や幼稚園などの子育て環境や子育て支援策	243	11.1%
⑥ 歴史あるまちなみ	263	12.0%
⑦ 祭りなどのイベント	154	7.0%
⑧ 人の魅力	54	2.5%
⑨ 東京から2時間という距離	176	8.0%
⑩ その他	37	1.7%
⑪ 無回答	111	5.0%
計	2,199	100.0%



問40 移住・定住を今後とも積極的に進めていくためには、どのような支援が有効だと思いますか。（2つまで回答可）

移住相談会やホームページなどを通じた情報発信が全体の30%近くとなっており、やはり情報を積極的にPRしていくことが必要と考えられているといえる。その他、前回調査よりも若干下がったが「働く場所」についての意見も約3割近くあり、本市にとっての移住・定住支援には「仕事」が切っても切れないものとなっていると考えられる。

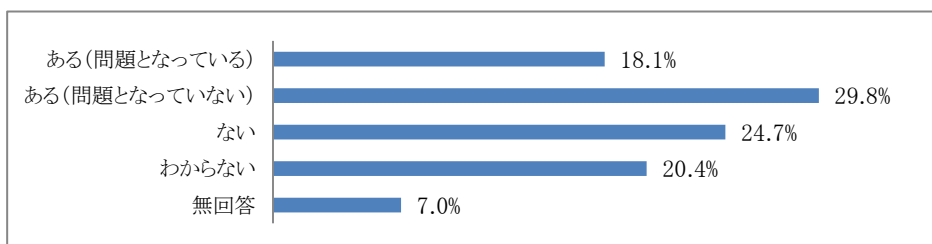
	回答数	構成比
① ちらし・ホームページなどによる情報発信	323	19.7%
② 移住支援策の充実	272	16.6%
③ 窓口での相談体制の充実	110	6.7%
④ 移住者向け相談会などの開催	155	9.4%
⑤ 移住・交流支援を主目的とした支援組織の整備	143	8.7%
⑥ 働く場所のあっせん	473	28.8%
⑦ その他	18	1.1%
⑧ 無回答	148	9.0%
計	1,642	100.0%



問41 あなたの家の周囲に空き家はありますか。また、問題となっていますか。

「ある（問題となっている）」、「ある（問題となっていない）」の合計で47.9%となり、5割程度の人が周囲に空き家があると認識している。また、空き家のうちの約4割に何らかの問題があるという結果となっている。

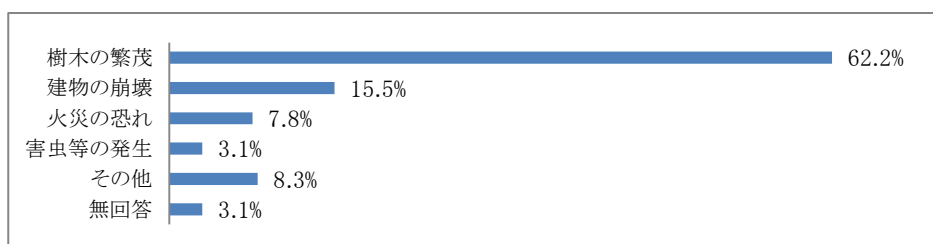
	回答数	構成比
① ある（問題となっている）	193	18.1%
② ある（問題となっていない）	318	29.8%
③ ない	264	24.7%
④ わからない	218	20.4%
⑤ 無回答	74	7.0%
計	1,067	100.0%



問42 問41で①と答えた人にお聞きします。最も問題となっている理由は何ですか。

問題となっている空き家の原因では「樹木の繁茂」が62.2%、「建物の崩壊」が15.5%という結果となり、この2項目で約8割を占めている。この結果、空き家の草木の管理を適正に行ってもらえれば、周囲に迷惑をかける空き家は減少すると思われる。

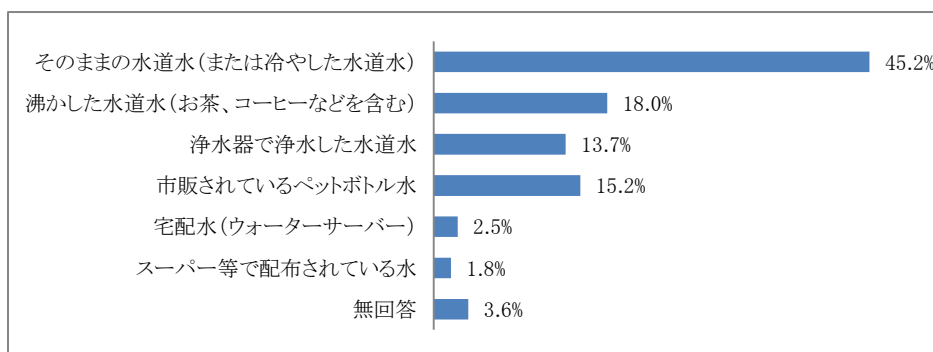
		回答数	構成比
①	樹木の繁茂	120	62.2%
②	建物の崩壊	30	15.5%
③	火災の恐れ	15	7.8%
④	害虫等の発生	6	3.1%
⑤	その他	16	8.3%
⑥	無回答	6	3.1%
	計	193	100.0%



問43 普段の生活で「飲み水」として主に何を利用していますか。(複数回答可)

「そのままの水道水」(45.2%)が最も多く、次いで「沸かした水道水」(18.0%)、「市販されているペットボトル水」(15.2%)、「浄水器で浄水した水道水」(13.7%)となっている。水道水を飲用水として利用している割合は、「そのままの水道水」「沸かした水道水」「浄水器で浄水した水道水」の構成比を合計すると、全体の76.9%となり、水道水を飲用水として利用している方が高い結果となっている。

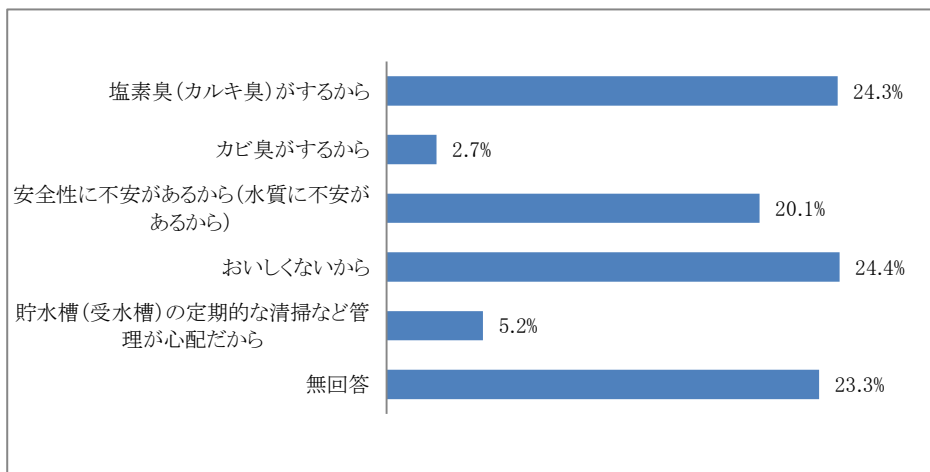
	回答数	構成比
① そのままの水道水(または冷やした水道水)	651	45.2%
② 沸かした水道水(お茶、コーヒーなどを含む)	259	18.0%
③ 浄水器で浄水した水道水	197	13.7%
④ 市販されているペットボトル水	219	15.2%
⑤ 宅配水(ウォーターサーバー)	36	2.5%
⑥ スーパー等で配布されている水	26	1.8%
⑦ 無回答	51	3.6%
計	1,439	100.0%



問44 問43で②～⑥と答えた人にお聞きします。水道水をそのまま飲まない理由は何ですか。(複数回答可)

「おいしくないから」(24.4%)が最も多く、次いで「塩素臭(カルキ臭)がするから」(24.3%)、「安全性に不安があるから」(20.1%)となっている。この結果から、水道水をそのまま飲まない水利用者は、水道水の臭味への関心の他、安全性に対しても関心があるものといえる。

	回答数	構成比
① 塩素臭(カルキ臭)がするから	179	24.3%
② カビ臭がするから	20	2.7%
③ 安全性に不安があるから(水質に不安があるから)	148	20.1%
④ おいしくないから	180	24.4%
⑤ 貯水槽(受水槽)の定期的な清掃など管理が心配だから	38	5.2%
⑥ 無回答	172	23.3%
計	737	100.0%



問45 水道事業は、水道料金を財源とした独立採算で経営されていることを知っていましたか。

「知っていた」(42.9%)、「知らなかった」(50.0%)となっている。およそ2人に1人は水道事業の経営の仕組みを知っているという結果となっており、水道事業に関する情報提供の度合いが高いといえるものの、今後もさらに周知していく必要がある。

	回答数	構成比
① 知っていた	458	42.9%
② 知らなかった	534	50.0%
③ 無回答	75	7.1%
計	1,067	100.0%

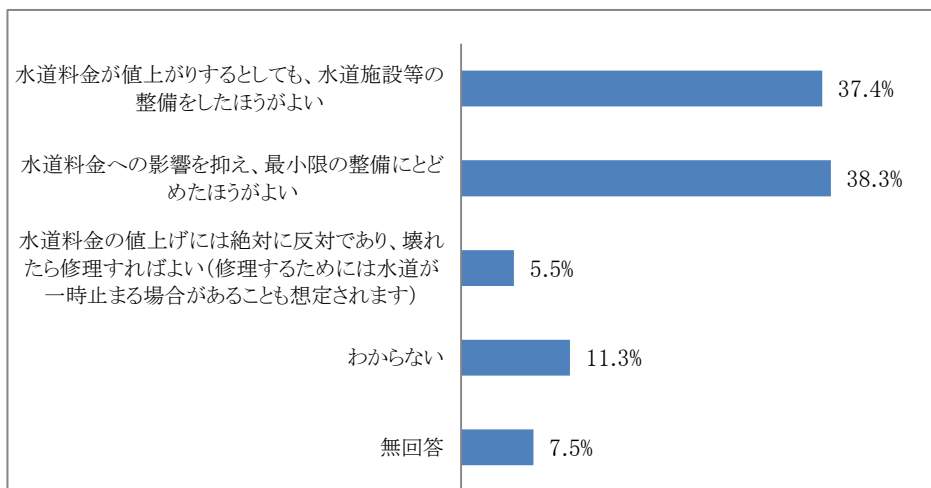


問46 全国的に老朽化した施設整備の時期を迎えている状況の中、今後の老朽化した水道管の布設替えや、施設、設備の整備についてどう思いますか。

「水道料金への影響を抑え、最小限の整備にとどめたほうがよい」(38.3%)が最も多く、次いで「水道料金が値上がりするとしても、水道設備等の整備をしたほうがよい」(37.4%)となり、この2つに回答が集中している結果となっている。

この結果から、多くの水利用者は、老朽化施設の整備の必要性は認識しているということが分かる。今後、施設整備の更新時期を迎える中、水利用者の更なる理解のもと、負担を抑えながら整備を行っていききたい。

		回答数	構成比
①	水道料金が値上がりするとしても、水道施設等の整備をしたほうがよい	399	37.4%
②	水道料金への影響を抑え、最小限の整備にとどめたほうがよい	409	38.3%
③	水道料金の値上げには絶対に反対であり、壊れたら修理すればよい（修理するためには水道が一時止まる場合があることも想定されます）	59	5.5%
④	わからない	120	11.3%
⑤	無回答	80	7.5%
	計	1,067	100.0%

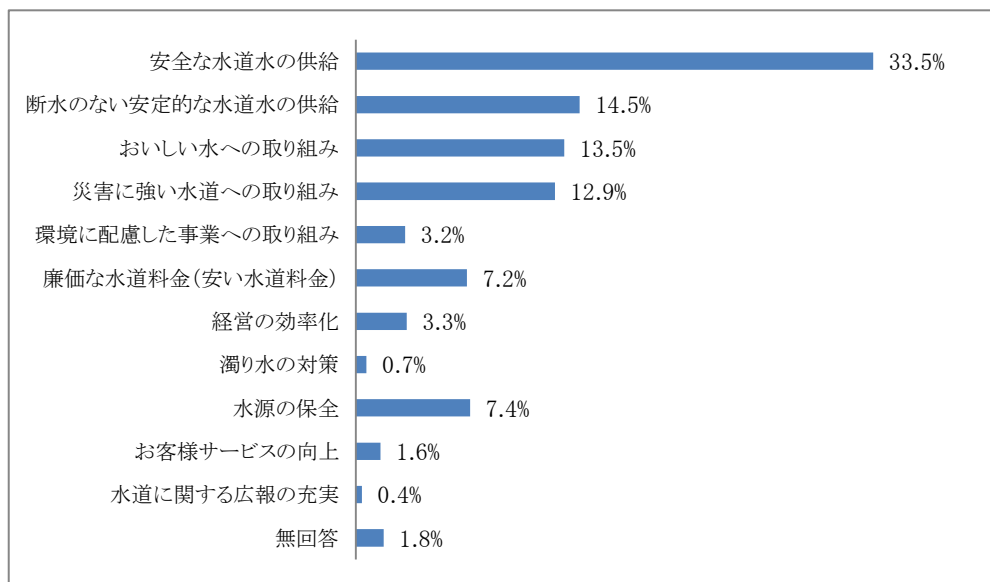


問47 今後の水道事業に対し、どのようなことを望みますか。（3つまで回答可）

「安全な水道水の供給」（33.5%）が最も多く、次いで「断水のない安定的な水道水の供給」（14.5%）、「おいしい水への取り組み」（13.5%）、「災害に強い水道への取り組み」（12.9%）となっている。多くの水利用者は、水道水の安全性と安定供給に関心があることから、今後も安全安心な水の供給に努めていきたい。

また、「濁り水の対策」や、「お客様サービスの向上」「水道に関する広報の充実」は、特に低い回答数となっていることから、これらの取り組みは図られているものと考えられる。

		回答数	構成比
①	安全な水道水の供給	899	33.5%
②	断水のない安定的な水道水の供給	390	14.5%
③	おいしい水への取り組み	364	13.5%
④	災害に強い水道への取り組み	347	12.9%
⑤	環境に配慮した事業への取り組み	87	3.2%
⑥	廉価な水道料金（安い水道料金）	194	7.2%
⑦	経営の効率化	88	3.3%
⑧	濁り水の対策	19	0.7%
⑨	水源の保全	198	7.4%
⑩	お客様サービスの向上	43	1.6%
⑪	水道に関する広報の充実	12	0.4%
⑫	無回答	47	1.8%
	計	2,688	100.0%



第 22 回「市民の声」アンケート自由意見集約結果

1 記載の状況

アンケート回収総数 1,067 人中、自由意見欄に記載があったのは 372 人で全体の 34.9%。記載者全体のうち男が 38.2%、女が 60.5%、不明 1.3%である。

第 21 回の 38.4% (1,029 人中 395 人) に比べ 3.5 ポイント減少した。

(1) 記載者数

男 142 人 女 225 人 不明 5 人 合計 372 人

(2) 区別記載者数

1 区から 22 区まで全ての区で記載者があり、最小は 2・19 区の 3 人、最大は 15 区の 59 人、不明 6 人。

(3) 年代別記載者数

区分されている全ての世代に記載があり、最小は 20 歳代の 14 人、最大は 70 歳代以上の 103 人、不明 3 人。

2 項目別内訳

記載内容は、1 人 1 件から、最大 9 件の記載があり、2 件以上について記載されているものについては、それぞれ別分類して 1 件とした。

分類の方法は、おおむね事務分掌により分類したが、項目別で数が多いものについては事業名を参考にさらに細かく分類した。なお、賛成・反対の意見は別扱いとせず、1 つの項目とした (一部を除く)。

「活気のある (住みよい) 街づくりを希望します…」といったような、具体的な施策や内容などに触れられていないものについては、「まちづくり」に分類した。

3 項目別件数

前項の分類に従って作成した「自由意見記入欄項目別分類」で、分類した数は 97 項目 694 件。複数の課や事業に関わるものはそれぞれに掲載した。

項目別に数の多かったものは次のとおり (10 件以上)。

合併	37 件	高齢者支援	18 件
まちづくり	31 件	道路整備	18 件
雇用対策・就労支援	24 件	道路維持・管理	18 件
商業振興	23 件	観光	17 件
企業誘致	23 件	議員定数	16 件
「市民の声」アンケート	22 件	職員数	15 件
人口対策	19 件	地域生活	15 件
バス・デマンドタクシー	18 件	子育て支援	13 件
市政運営	18 件	介護保険	12 件
市税	18 件		

4 項目別件数 (部局別)

部局別、項目別件数は次ページ以降のとおり。

秘書室 (1項目 7件)

市長 7件

総合政策部 (15項目 192件)

合併	37件	広報紙	4件
まちづくり	31件	情報発信	3件
「市民の声」アンケート	22件	免許返納	2件
人口対策	19件	重伝建	2件
バス・デマンドタクシー	18件	広域行政	1件
市政運営	18件	ホームページ	1件
公共交通	8件	その他提言	20件
学校跡地利用	6件		

総務部 (13項目 72件)

職員数	15件	防犯灯	5件
交通安全	9件	庁舎管理	3件
職員の接遇	8件	防犯	3件
窓口サービス	7件	業務効率化	2件
職員給与	6件	職員採用	1件
職員の資質・服務	6件	民間委託	1件
防災	6件		

財政部 (2項目 22件)

市税 18件 財政 4件

市民生活部 (10項目 47件)

地域生活	15件	年金	2件
ごみ収集	8件	騒音	2件
環境	7件	野外焼却	2件
国民健康保険	6件	再生可能エネルギー	1件
墓地	3件	医療助成	1件

保健福祉部 (13 項目 75 件)

高齢者支援	18 件	生活保護	3 件
子育て支援	13 件	保育園	3 件
介護保険	12 件	生活支援	1 件
厚生総合病院	7 件	学童保育	1 件
医療	5 件	一人親家庭	1 件
低所得者支援	5 件	健診	1 件
障害者雇用・支援	5 件		

産業経済部 (11 項目 114 件)

雇用対策・就労支援	24 件	桐生八木節まつり	5 件
商業振興	23 件	産業活性化	5 件
企業誘致	23 件	山林開発・整備	3 件
観光	17 件	農業振興	1 件
鳥獣害対策	6 件	産学連携	1 件
イベント開催	6 件		

都市整備部 (12 項目 85 件)

道路整備	18 件	河川整備・管理	5 件
道路維持・管理	18 件	公営住宅	4 件
動物園・遊園地	11 件	住宅支援	2 件
空き家・空き地対策	9 件	都市整備	1 件
公園整備・管理	8 件	水路	1 件
移住定住	7 件	道路工事	1 件

水道局 (4 項目 14 件)

水道料金	6 件	飲料水販売	2 件
水道水	4 件	水道事業	2 件

議会事務局 (5 項目 34 件)

議員定数	16 件	市議会だより	2 件
議員給与	9 件	政務調査費	1 件
議員活動	6 件		

教育委員会管理部 (7 項目 23 件)

学校施設	7 件	スポーツ施設	2 件
公民館	5 件	図書館	2 件
市民文化会館	3 件	給食	2 件
市民体育館	2 件		

教育委員会教育部（4項目9件）			
------------------------	--	--	--

通学路	3件	教育環境	2件
幼稚園	3件	学校教育	1件

『市民の声』アンケート

(第22回)

市民の皆様へ

桐生市では、このまちで暮らす皆さんが、住んでいて良かったと実感できるまちを目指し、広く皆さんの声を取り入れて市政を進めています。

そこで、今後の市政に反映させる資料とするため、22回目となるアンケート調査を行います。

実施にあたり、アンケートをお願いする方を2,000人とし、無作為に抽出したところ、あなたに回答をお願いすることになりました。

お忙しい中、誠に恐縮ですが、桐生市をより良くするため、ぜひ御協力いただきますようお願い申し上げます。

平成28年 7月

桐生市長 亀山 豊文

記入方法について

- ・封筒の宛名の御本人がお答えください。やむを得ず、御本人が回答できない場合は御家族の方がお答えいただいても結構です。
- ・筆記具は、鉛筆でもボールペンでも結構です。
- ・あなたの氏名を書く必要はありません。
- ・いずれの質問も、回答欄にある番号や該当する欄に○を付けていただく形式となっています。
- ・回答で「その他（ ）」に○印をつけた場合には、具体的な内容を（ ）内に回答ください。

・回答いただいたアンケートは、お手数ですが同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずに、**7月31日（日）までに**投かんしてください。

【このアンケートのお問い合わせ先】

桐生市役所 総合政策部

情報政策課広報広聴係

電話番号 4 6 - 1 1 1 1 内線505・506

基本調査項目 この項目は過去の調査と比較のため、毎回同じ調査を行います

【問 1】あなたのお住まいの地区に○をつけてください。

- 1区 (本町一～三丁目、横山町) 2区 (本町四～六丁目)
3区 (稲荷町、錦町一～三丁目、織姫町、桜木町、美原町、清瀬町)
4区 (新宿一～三丁目、三吉町一・二丁目、小梅町、琴平町)
5区 (浜松町一・二丁目) 6区 (仲町一～三丁目、川岸町、泉町、東町、高砂町、旭町)
7区 (東一～七丁目)
8区 (末広町、宮前町一・二丁目、堤町一～三丁目、巴町一・二丁目、元宿町)
9区 (永楽町、小曾根町、宮本町一～四丁目、宮本町)
10区 (東久方町一～三丁目、西久方町一・二丁目、天神町一～三丁目、平井町)
11区 (境野町一～七丁目) 12区 (広沢町一～三丁目)
13区 (広沢町四～七丁目、広沢町間ノ島) 14区 (梅田町一～五丁目)
15区 (相生町二丁目の一部、相生町三～五丁目) 16区 (川内町一～五丁目)
17区 (菱町一～五丁目) 18区 (相生町一丁目、相生町二丁目の一部)
19区 (新里町赤城山・板橋・関・高泉・大久保・奥沢、新里町鶴ヶ谷の一部)
20区 (新里町鶴ヶ谷の一部、新里町山上・小林・武井・野) 21区 (新里町新川)
22区 (黒保根町水沼・八木原・上田沢・下田沢・宿廻)

【問 2】あなたの性別はどちらですか。

- ①女 ②男

【問 3】あなたの年齢はおいくつですか。

- ①20～29歳 ②30～39歳 ③40～49歳 ④50～59歳 ⑤60～69歳 ⑥70歳以上

【問 4】あなたは桐生市に住んでどのくらいになりますか。

- ①1年未満 ②1年以上～5年未満 ③5年以上～10年未満
④10年以上～20年未満 ⑤20年以上～30年未満 ⑥30年以上

【問 5】あなたの職業に○をつけてください。兼業の人は、本業と思われるほうに○をつけてください。

- ①自営業主、家族従業者 (農・林・漁業、会社・工場・商店などの経営、自由業)
②勤め人 (会社・工場・商店・官公庁などに勤務、パート・アルバイト含む)
③学生 ④その他 (家事専業、無職、その他)

【問 6】職業をお持ちの人や学生の人にお聞きします。あなたの勤務先 (事業所・工場・商店などの所在地) や通学先はどちらですか。

- ①桐生市 ②みどり市 ③太田市 ④館林市
⑤伊勢崎市 ⑥足利市 ⑦佐野市 ⑧前橋市
⑨上記の市以外で県内の市町村 ⑩上記の市以外で県外の市区町村

【問7】 桐生市のことについてお聞きします。あなたは桐生市に住んでいて、毎日の暮らしをどのように感じていますか。次の1～6の項目について、あなたのお気持ちに最も近い欄にそれぞれ○をつけてください。

項 目	満 足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不 満	わからない
1. 働く場として					
2. 老後の生活の場として					
3. 子供の教育の場として					
4. 住まいの環境や暮らしやすさ					
5. 生きがいや暮らしの充実感					
6. 住民同士の協力体制					

【問8】 あなたの住んでいる地区についてお聞きします。あなたは、住んでいる地区の生活環境についてどのように感じていますか。次の1～19の項目について該当する欄に○をつけてください。

項 目	満 足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不 満	わからない
1. 道路交通の安全さ					
2. 道路の広さや舗装状況					
3. 夜道の安全さなど防犯					
4. 火災、水害などの防災					
5. 下水や雨水のはけぐあい					
6. ごみの処理状況					
7. し尿の処理状況					
8. 騒音悪臭などの生活環境					
9. 緑の豊かさ					
10. 近所づきあい					
11. 日常の交通の便利さ					
12. 日常の買物の便利さ					
13. 病院や診療所の便利さ					
14. 公園や子供の遊び場					
15. 公民館など地域の施設					
16. 体育館などの運動施設					
17. 幼稚園、小・中学校の通園、 通学の便					
18. 学校の施設整備について					
19. 保育施設整備について					

市内の移動についてお聞きします

(総合政策部広域調整室)

桐生市にはJR両毛線、東武鉄道、上毛電気鉄道及びわたらせ渓谷鐵道の4つの鉄道があり、15の鉄道駅が設置されています。また、市内ではおりひめバス、新里町デマンドタクシー、黒保根町デマンドタクシーが各地域を運行しています。しかしながら、これら公共交通機関の利用者は、人口減少などの社会情勢の変化に伴い、減少傾向にあります。そのような中、近年では高齢者の運転操作ミスや、突発的な疾病による自動車事故が全国的にも増加しており、公共交通機関に対する期待も高まっています。こうした状況を踏まえて、次の項目について、該当する答えの番号に○をつけてください。

【問9】 日常の移動手段には何を利用していますか。(複数回答可)

- ①鉄道
- ②おりひめバス
- ③予約制乗合・デマンドタクシー
- ④タクシー
- ⑤本人が運転する自動車
- ⑥家族などが運転する自動車
- ⑦バイク
- ⑧自転車
- ⑨徒歩のみ
- ⑩その他 ()

【問10】 問9で①～④と答えた人にお聞きします。主な利用の目的は何ですか。(複数回答可)

- ①通院
- ②通勤
- ③通学
- ④買い物
- ⑤趣味・習い事
- ⑥外食
- ⑦その他 ()

【問11】 問9で⑤と答えた人にお聞きします。免許証を自主的に返納するとしたら、どのような場合に考えますか。

- ①医者に言われたとき
- ②家族など周囲の人に言われたとき
- ③自分の運転に自信がなくなったとき
- ④返納する気はない
- ⑤その他 ()

【問12】 自分で運転をしなくなる時期は何歳頃だと思いますか。

- ①49歳以下
- ②50歳代前半
- ③50歳代後半
- ④60歳代前半
- ⑤60歳代後半
- ⑥70歳代前半
- ⑦70歳代後半
- ⑧80歳代以上

【問13】 自分で運転をしなくなった後の主な移動は、どのような手段が考えられますか。

- ①家族や知人の運転する自動車
- ②おりひめバスやデマンドタクシー等の公共交通
- ③タクシー
- ④徒歩のみ
- ⑤その他 ()

広報きりゅうについてお聞きします

(総合政策部情報政策課)

市政に関する情報や各種のお知らせを、「広報きりゅう」で市民の皆さんにお伝えしています。次の項目について、該当する答えの番号に○をつけてください。

【問14】あなたは、「広報きりゅう」を読んでいますか。

- ①ほとんど読む ②必要なところだけ読む ③たまに読む ④読まない

【問15】「広報きりゅう」の本文に使用している文字の大きさはどうですか。

- ①大きすぎる ②少し大きい ③ちょうど良い ④少し小さい
⑤小さすぎる

市議会だよりについてお聞きします

(議会事務局議事課)

市議会に関する情報や各種のお知らせを、「市議会だより」で市民の皆さんにお伝えしていますが、次の項目について、該当する答えの番号に○をつけてください。

【問16】あなたは、「市議会だより」を読んでいますか。

- ①ほとんど読む ②必要なところだけ読む ③たまに読む ④読まない

【問17】毎定例会ごとに8ページモノクロ印刷で発行していますが、ページ数や色彩についてどう思いますか。

＜ページ数について＞

- ①ちょうど良い ②ページ数を増やしたほうが良い
③ページ数を減らしたほうが良い

＜色彩について＞

- ①今のまま（モノクロ印刷）が良い ②2色印刷にしたほうが良い
③フルカラー印刷にしたほうが良い

【問18】「市議会だより」の本文に使用している文字の大きさはどうですか。

- ①大きすぎる ②少し大きい ③ちょうど良い ④少し小さい
⑤小さすぎる

防災についてお聞きします

(総務部安全安心課)

大雨や地震による大きな被害が全国で発生しています。万一の場合には、家庭における備えがとても大切です。日頃からの防災への取り組みや備えについて、次の項目の該当する答えの番号に○をつけてください。

【問19】 日頃から、どのような備えをしていますか。(複数回答可)

- ①家族との連絡方法の確認
- ②避難場所や経路の確認
- ③水や食料の準備
- ④非常用持出品(非常用ラジオ、懐中電灯、医薬品など)の準備
- ⑤住宅の耐震診断や補強工事
- ⑥家具などの転倒防止
- ⑦ブロック塀の点検や倒壊防止
- ⑧具体的な備えはしていない

【問20】 水(1人1日3リットル)や食料は家族何日分の備蓄をしていますか。

- ①1日分
- ②2日分
- ③3日分
- ④4日～6日分
- ⑤7日(1週間)分以上
- ⑥用意していない

【問21】 災害時に情報を入手する方法は何ですか。(複数回答可)

- ①テレビ
- ②ラジオ
- ③防災行政無線
- ④防災ラジオ
- ⑤インターネット(ツイッター、フェイスブック含む)
- ⑥携帯電話・スマートフォン
- ⑦その他()
- ⑧特に考えていない

※防災行政無線…災害時、市が住民に情報を提供するための無線通信システムのこと。
新里町、黒保根町に設置。
※防災ラジオ…市が有償頒布している、緊急情報を受信すると自動起動しお知らせする「桐生市防災ラジオ」のこと。

【問22】 自宅以外へ避難しなければならない事態に備えて、どこへ避難するか決めていますか。また、決めている場合、どこへ避難しますか。(複数回答可)

- ①避難所・避難場所として指定されている学校や公民館など
- ②地元の町会や自治会で決めている特定の建物や場所など
- ③市内の親戚や知人宅
- ④市外の親戚や知人宅
- ⑤その他()
- ⑥特に決めていない

【問23】 災害に対しては、地域住民が自主的に連帯して防災活動を行うことが必要です。こういった地域防災活動に参加したいと思いますか。

- ①参加したい
- ②どちらかといえば参加したい
- ③どちらかといえば参加したくない
- ④参加したくない

墓地についてお聞きします

(市民生活部市民生活課)

少子高齢化の進展や単身世帯、夫婦のみ世帯の増加など社会状況が大きく変化するなかで、墓地に対する市民の考え方やニーズを把握して、今後の参考とするために調査するものです。次の項目について、該当する答えの番号に○をつけてください。

【問24】 あなたには利用できるお墓がありますか。

- ①宗教法人の墓地にお墓がある ②民営の墓地にお墓がある
③公営の墓地にお墓がある ④ ①～③以外の墓地にお墓がある
⑤ない

【問25】 問24で⑤と答えた人にお聞きします。あなたはお墓を必要としていますか。

- ①現在必要としている
②近い将来必要である
③今はわからない
④必要としていない

【問26】 問25で①、②と答えた人にお聞きします。あなたはどの経営主体の墓地にお墓を希望しますか。

- ①宗教法人の墓地 ②民営の墓地
③公営の墓地 ④どこでもかまわない
⑤わからない

【問27】 問25で①、②と答えた人にお聞きします。あなたはどの形態のお墓を希望しますか。

- ①従来型の墓地（区画が分かれている伝統的なお墓）
②納骨堂（遺骨を安置しておく屋内施設）
③樹木型墓地（樹木を墓標とし、焼骨を埋蔵）
④合葬式墓地（共同で埋蔵するお墓）
⑤特にこだわらない
⑥その他（ ）

自治会・町会への意識についてお聞きします

(市民生活部市民生活課)

人口減少や高齢化が進む中、自治会・町会加入率の低下や役員の担い手不足は、各地域における自治会・町会共通の悩みです。その一方で、防災対策や高齢者の見守り活動に対する自治会・町会の役割に期待が持たれています。こうした状況を踏まえて、次の項目について、該当する答えの番号に○をつけてください。

[問28] あなたは、自治会・町会等に参加してよかったと思いますか。

- ①とてもよかった
- ②どちらかといえばよかった
- ③どちらともいえない
- ④加入しないほうがよかったが、仕方なく加入している
- ⑤加入していない

[問29] 問28で⑤と答えた人にお聞きします。あなたが自治会・町会に参加しない理由はどのようなことですか？(複数回答可)

- ①自治会・町会費を払いたくない、負担が大きいため
- ②何をしているのかわからない、加入のメリットがわからないから
- ③近所づきあいをしたくないから
- ④引越す予定があるから、単身、学生だから
- ⑤その他 ()

[問30] 自治会・町会の最も重要な役割は、どのようなことだと思いますか。

- ①防災訓練や防犯灯の維持管理など、防災、防犯、交通安全に関すること
- ②ごみステーションや地域の環境美化に関すること
- ③祭りやイベントの参加など、住民同士のコミュニケーションの場
- ④子どもや高齢者の見守り活動など、地域の福祉活動
- ⑤広報配布や回覧など、行政とのパイプ役

[問31] 自治会・町会に課題があるとすれば、どのようなことだと思いますか。(複数回答可)

- ①課題はない
- ②役員の高齢化や担い手不足
- ③どのような活動をしているかわかりづらいこと
- ④会計の内容などがよくわからないこと
- ⑤自治会・町会費が高いこと
- ⑥隣組回覧など、行政から依頼されていることが多いこと

[問32] 地震や水害、火災予防などの防災対策のために、自治会・町会の活動は必要だと思いますか。

- ①必要
- ②どちらかといえば必要
- ③どちらともいえない
- ④どちらかといえば不要
- ⑤不要

市内の空き家の状況や利活用についてお聞きします (都市整備部空き家対策室)

総務省が実施している統計調査の結果によると、全国的にも空き家の件数は年々増加傾向にあり、なかでも管理不全の状態の空き家が増えてきており、社会的な問題となってきました。一方で、「空き家・空き地バンク」などで移住者を増やしたり、空き家を利活用して飲食店やコミュニティの場として活用したりしている事例も多く見られます。こうした状況を踏まえて、次の項目の該当する答えの番号に○をつけてください。

[問37] 市のホームページで物件を紹介する空き家・空き地バンク事業を知っていますか。

- ①知っている、利用したことがある ②知っているが、相談する物件を持っていない
③知っているが、利用したいと思わない
④知らなかったし、利用したいと思わない
⑤知らなかったの、利用したいと思う
⑥知らなかったし、相談する物件を持っていない
⑦その他 ()

[問38] 問37で③・④と答えた人にお聞きします。利用してみたいと思わない理由は何ですか。(複数回答可)

- ①本事業の仕組みが良くわからないから
②紹介できる物件かどうかわからないから
③建物が古いから ④手続きが面倒そうだから
⑤相続などの権利関係が複雑そうだから
⑥その他 ()

[問39] 移住・定住を希望する方へ桐生市の魅力をPRするうえで、何が一番の魅力だと思いますか。(複数回答可)

- ①川や山など豊かな自然 ②病院や学校、下水道などのインフラ施設
③鉄道やバスなど公共交通機関の充実 ④働く場所・就職先として
⑤保育園や幼稚園などの子育て環境や子育て支援策
⑥歴史あるまちなみ ⑦祭りなどのイベント
⑧人の魅力 ⑨東京から2時間という距離
⑩その他 ()

[問40] 移住・定住を今後とも積極的に進めていくためには、どのような支援が有効だと思いますか。(2つまで回答可)

- ①ちらし・ホームページなどによる情報発信 ②移住支援策の充実
③窓口での相談体制の充実 ④移住者向け相談会などの開催
⑤移住・交流支援を主目的とした支援組織の整備 ⑥働く場所のあっせん
⑦その他 ()

[問41] あなたの家の周囲に空き家はありますか。また、問題となっていますか。

- ①ある (問題となっている)
②ある (問題となっていない) ③ない ④わからない

[問42] 問41で①と答えた人にお聞きします。最も問題となっている理由は何ですか。

- ①…樹木の繁茂 ②…建物の崩壊 ③…火災の恐れ
④…害虫等の発生 ⑤…その他

桐生市の水道事業は、昭和7年に通水を開始して以来85年が経過しました。創設時の水道施設や管路網は老朽化が著しく、大規模な整備が喫緊の課題となっています。一方で給水人口の減少や生活様式の変化などに伴い、給水収益が減少している状況にあります。水道局では、将来に渡って事業が安定的に継続できるよう、「アセットマネジメント及び管路等更新計画」の策定に取り組んでいます。こうした状況を踏まえて、次の項目の該当する答えの番号に○をつけてください。※アセットマネジメント・・・資産管理調査

【問43】 普段の生活で「飲み水」として主に何を利用していますか。（複数回答可）

- ①そのままの水道水（または冷やした水道水）
- ②沸かした水道水（お茶、コーヒーなどを含む）
- ③浄水器で浄水した水道水
- ④市販されているペットボトル水
- ⑤宅配水（ウォーターサーバー）
- ⑥スーパー等で配布されている水

【問44】 問43で②～⑥と答えた人にお聞きします。水道水をそのまま飲まない理由は何ですか。（複数回答可）

- ①塩素臭（カルキ臭）がするから
- ②カビ臭がするから
- ③安全性に不安があるから（水質に不安があるから）
- ④おいしくないから
- ⑤貯水槽（受水槽）の定期的な清掃など管理が心配だから

【問45】 水道事業は、水道料金を財源とした独立採算で経営されていることを知っていましたか。

- ①知っていた
- ②知らなかった

【問46】 全国的に老朽化した施設整備の時期を迎えている状況の中、今後の老朽化した水道管の布設替えや、施設、設備の整備についてどう思いますか。

- ①水道料金が値上がりするとしても、水道施設等の整備をしたほうがよい
- ②水道料金への影響を抑え、最小限の整備にとどめたほうがよい
- ③水道料金の値上げには絶対に反対であり、壊れたら修理すればよい
(修理するためには水道が一時止まる場合があることも想定されます)
- ④わからない

【問47】 今後の水道事業に対し、どのようなことを望みますか。（3つまで回答可）

- ①安全な水道水の供給
- ②断水のない安定的な水道水の供給
- ③おいしい水への取り組み
- ④災害に強い水道への取り組み
- ⑤環境に配慮した事業への取り組み
- ⑥廉価な水道料金（安い水道料金）
- ⑦経営の効率化
- ⑧濁り水の対策
- ⑨水源の保全
- ⑩お客様サービスの向上
- ⑪水道に関する広報の充実

最後に、市政について、何かお気づきのことや考えていることがありましたら、御自由にお書きください。

御協力、大変ありがとうございました。

自由意見記入欄